

# GUNDAM

## MS HISTORICA

ガンダム  
MS2ストリカ

ガンダムの世紀

皆河有伽

第6回内なる「ガンダム」の歴史を辿る

GUNDAM SIDESTREAM

ガンダム・サイドストリーム

第6回GUNDAM FAVORITE

GUNPLA Revelations

〜ガンプラ30年の歩み〜

第6回 MGからRGへ


その光にあるガンダラの未来

進化系ガンダム特集

# Gを超え、先へと進むもの

F91 ガンダム F91 LM312V04 Vガンダム RX-0 ユニコーンガンダム

F91 GUNDAM FORMULA-91  
LM312V04 VICTORY GUNDAM  
RX-0 UNICORN GUNDAM



Gを超え、

イラスト：清原敏明



最強の称号を受け継ぐのなら、停滞は許されない。  
目指すは究極の機体、究極のガンダム。  
ガンダムとして誕生しながらガンダムを超えるべく、  
進化の道を行く――。

# 先へと進むもの

# 新世紀を駆ける新世代機

登場以来40年余、高性能化の一途をたどってきたMSは、平和の訪れとともに長い停滞期に陥った。だが、技術革新の波は着実に迫っていた。ガンダムF91は、まさに新技術を結集して造り出された。U.C.0120年代初期を代表する新鋭MSだった。

構成・文 日下部匡彦

## 長き停滞の果てに

U.C.0079年に実戦に投入されて以来、MSの性能向上のさまじは、目をはるものがあった。特に最初の10年においては、西暦で呼ばれた時代に、航空機がレシプロ機から超音速ジェット機に進化した時以上の、劇的な変化が起きている。だが0090年代初頭、MSは進化の歩みを急激に鈍らせる。地球圏に目立って大きな紛争もなく、新兵器開発の必要性が薄れたことが、理由の一つである。さらに、当時MS生産をほぼ独占してい



性能的にU.C.0060年代のMSを凌ぐ  
連邦軍主力MS、Zetaガンダム

たA.E.社は、利益の大きいジェガンを生産を継続するため、後に地球連邦が抱出した、MSの小型化の要請に本腰を入れて向き合おうとはしなかった。ジェガンはマイナーチェンジを受けながら、結果的に連邦軍の主力機として0120年代まで運用され続けた。

そんな折、クロスボーン・バンガードによる武



連邦軍の主力機として  
A.E.社に引き出された  
型は「ヘビーガン」

装機が劣化する。彼らは連邦軍に先駆けて小型化された高性能MSを量産しており、最先端技術であるビーム・シールドまで標準装備としていた。旧態依然たるジェガンや、そのスケールダウンモデルであるヘビーガンでは、それらに敵うはずもなく、連邦軍は為す術もなくクロスボーン・バンガードによる蹂躞を受けることとなった。

この体験は、一年戦争当初、シオン公園軍の惨



圧制的な性能差を見せつけるように、連邦軍のMSを撃破していく

り出したザクの前に連邦軍が倒された、苦い記憶を蘇らせるものだった。

## フォーミュラ計画

0110年には連邦国内でも、海軍戦略研究所（サナリイ）において（A.E.社に半ば見切りをつけながら）F計画と呼ばれる次世代MSの研究が進められており、0111年から数々の実用試作機がロールアウトされていた。なかでもF91は、計測の集大成とも呼べる機体で、F90シリーズ（かつて、ひとつの機体に多機能を盛り込もうとするあまり、MSのサイズと製造コストが膨れ上がっていた事実を踏まえ、目的に貼って装備を選択する、ミッショントラック方式を採用している）という多岐にわたる状況下での運用を前提としたほか、機体のデータを踏まえ、誕生したものだ。そこには惜しみなく最先端技術が投入され、小型化MSの性能の限界を追求している。結果、当代表最強の性能を得たが、乗り手を扱えないにきもも有していた。

だが、クロスボーン・バンガードのMSと闘い、それらを相手に目覚ましい戦果を挙げたF91の登場は、連邦軍とA.E.社の蜜月を、はっきりと終わらせることになった。新たなコンセプトを持ち、新たな開発者達によって育み出される小型MSを中心とした、第2期MSの時代が訪れたのだ。

## Basic Knowledge of

## コスモ・バビロニア建国戦争の時代

### 途絶する平和の時代

第2次ネオ・ジオン戦争の終結後、地球圏は次第に平和な情勢を取り戻していた。戦争のない世界は、経済の発展を得て、おおに発展していた。戦争、人類は宇宙へ出て以降、初めてといえる（少なくとも表面的には）平和な時代を迎えることになった。それは、世界すべてが地上に暮らし続けた時代と同じ、道楽の楽園を呼び込むことにもなった。

### 新興コロニーとコスモ貴族主義

この時代、多くのスペース・コロニーが新しく建設されている。これらのコロニーは、多くが地球圏における農業生産を担うことになった。大きく減少した人口とあいまって、荒廃した地球上ではもはや農業生産は絶望的な状態にあり、この時期の経済は、ほぼこうした新

興コロニーによって支えられていたといっている。

時代が下るとして、コロニーの豊穡度のなかから、高貴で強固な政治家が人類を統治するべきだという、一種の強固な理想を信奉する人々が現れた。ロク家はその源流であり、その経済力に物を言わせて、小規模ながら連邦軍すら凌ぐ新兵器を開発する軍事組織を組織、地球連邦政府に対して武装蜂起を行ったのである。



新興コロニーの一つ、フロンティア。地球圏の生産能力はこうしたコロニーに委ねていた。

シャアの反乱後の30年にわたる長き平和の中で、また新たな争いの種が芽吹こうとしていた。

コスモ・バビロニア建國宣言に賛まう  
結果、これも民衆の不安のあらわれだろう。



マイツツ・ロ  
ナ、コスモ貴族主義  
の提唱者としてクロス  
ボーン・バンガード  
の創設者である。



カロッツ・ロナ、鉄  
仮面の異名を持つ、ク  
ロスボーン・バンガ  
ード軍部門の指導者。

# SPEC

全高 15.2m  
 全長 7.8m  
 全幅 19.0m  
 シェネレーター出力 4,250kW  
 スラスター推力 88,400kg  
 装甲材質 カンダリウム合金セラミック複合材  
 武装 機関/リリカン×2  
 腕部メカ・マシンガン×2  
 ウェスパー×2  
 ビーム・サーベル×2  
 ビーム・ライフル  
 ビーム・ランチャー  
 ビーム・ノード×2



F90はF計画において完成した格闘専用の機体。従来機をはるかに凌ぐ出力を誇る。

イラスト・小笠原智史

# F91 GUNDAM FORMULA-91



# ガンダムF91の設計思想

U.C.0110年代に登場した第2期MSと呼ばれる一連のMS群の中でも、F91は飛び抜けた高性能を誇る新鋭機である。最先端技術の数々が高密度で集積された機体は、選性の高いパイロットが搭乗すれば、従来のMSでは成しえなかった高い運動性能を発揮することが可能となっている

## 新型熱核反応炉の採用

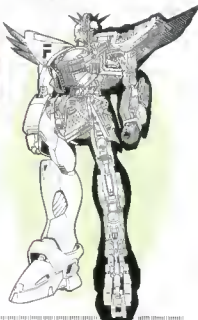
新世代機の例に漏れず、F91には小型化と高出力化を図った新型熱核反応炉が搭載されていた。

小型化とさらなる高性能化を同時に要求された新世代MSには、従来の熱核反応炉を搭載することは不可能だった。出力に対して、容積比や質量比が劣るからである。MSの小型化にあたっては、反応炉の小型化と同時に、容積あたりの高出力化が欠かせなかったのだ。この条件を満たす新型反応炉を実現可能なものとしたのは、この時期発達しつつあった「フィールド制御技術」だった。この1フィールドによって燃料と燃焼ヘリウム3や重水素を極遠距離状態で圧縮、貯蔵しておき、押込へ一気に反応させるというのが、この新型炉の原理である。この反応炉は、燃料を極遠距離状態で保つためにその搭載スペースが縮小され、小さな押込で大エネルギーを引き出すことができた。だが、反応炉のシステムが破壊した場合、解放された大量の燃料が反応を引き起こし、かなりの確率で核爆発を引き起こす危険もあった。この問題は、反応炉の原理にかかわるものだけになかなか解決されず、後の時代まで引き継がれることになった。

## マイクロハニカム技術とMCA

小型MSには、軽量で堅牢な新素材と、ムーバブル・フレームに代わる新構造が採用されている

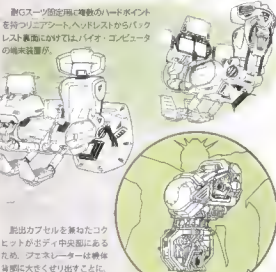
F91をはじめとする新世代機の小型化を成功させた、最大の要因は、以下の2つである。まず挙げられるのが、マイクロハニカム技術の誕生による構造材そのものの変革だ。これは、ミノフスキー粒子による立方格子を核に金属結晶を成長させることにより、軽量でありながら強固な金属素材を作り上げるもので、生成された素材は従来のガンダムUW合金を大きく凌ぐ強度を有していた。その結果、機体重量の大幅な軽減が可能としたのである。一方、ムーバブル・フレームに代わって採用されたのが、MCA（Multiple Construction Armour：多機能装甲）構造である。これは、サイコ・フレームで覆われた、構造材にコンピュータ・チップを埋め込む技術を採用している。情報伝達及び処理を行うとともに、さらにはエネルギー伝達回路としても働く、多機能で複雑な構造材が開発されたのだ。なおこの構造はフレームだけでなく、装甲材にも使用されている



## 標準的コクピットとバイオ・コンピュータ

F91に採用されたバイオ・コンピュータは、この高性能機の根幹をなす技術の一つである。

F91では、パイロットの記憶や感情すら、機体の操作に取り込もうとする試みがなされている。このため導入されたのが、バイオ・コンピュータである。これは、パイロットの思考を脳波レベルで抽出し、神経の補完や、思考での機体コントロールを可能とするものである。また、センサーが捉えた情報は、モニタ上に表示されるだけでなく、まるでパイロット自身が「実際に感じた」かのように直接伝達される。



脳コネクタを基にしたコクピットがボディ中央にあるため、フェイスユニットは胸部に大きく張り出す構造に

## 超高機動とその副産物

限界性能を引き出したF91は、他のMSを凌駕する機動力を有したが、予期せぬ副産物もあった。

F91の各機能には、リミッターがかけられている。操縦者が最大性能を制御可能なニュータイプだと、F91が「判断」した場合、リミッターは解除され、機体は最大機動モードへと移行する。それと同時に機体各所から放熱機構が露出し、過負荷状態の機体を強制冷却し始める。放熱による発熱の吸収だけでは追いつかない場合、装甲表面にはMEP E（Metal Peel off effect＝金属剝離効果）が発生する。この剝離した金属粒子（むしろ質量を持ち、高熱を帯びている）が実体に近い残像を形成し、肉眼やセンサーを混乱させるという効果を生んでいる



過熱はバイオ・コンピュータの、プロセスがオーバーヒートし、最大出力で動作しているため、メタリウムを剥離して高熱を帯びた粒子を放出し、残像を形成する



金属の粒子は機体の形を維持し、あたかも機体が分身したかのように複数存在する

# Weapons of F91

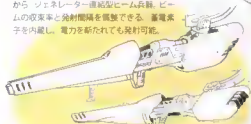
機体の小型化により固定装備の余裕はなくなったが、多様な装備を自在に持ち替え使用するという、MS本来の武器運用法に立ち戻ったともいえる。

## ビーム兵器

ビーム兵器はF91の主装備である。これは、1フィールド制覇技術の発達により、この時期の兵器全体がビーム系へとシフトしていたためもあるが、機体の小型化とジェネレーターの高出力化により、余剰出力を安定してビーム兵器に回すことが可能となったことが大きい。この新型ビーム砲ウェスバーを駆動できるのは、F91だけである。

### ウェスバー

名はV S B R (Variable Speed Beam Rifle)からジェネレーター直結型ビーム兵器。ビームの収束率と発射間隔を調整できる。蓄電素子を内蔵し、電力を断たれても発射可能。



その威力はビーム・シールドをも貫くほど。半固定式装備で、他の装備への換装も可能。

### ビーム・ライフル

標準装備のビーム・ライフル。MS本体装備に小型化されているが、出力や発射可能弾数は従来のものと同等で、それ以上である。



### ビーム・ランチャー

中・長距離攻撃用大型兵器。原理的にビーム・ライフルと同様のものだが、出力、収束率はライフルより高く、取り回しさえ気になれば近距離でも使用可能。



### ビーム・サーベル

ビームを振くことで切り込むことで、エネルギー消費を抑えつつ、従来型以上の威力を実現している。



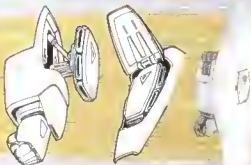
左側のサイド・軽量化および高効率化により、サーベルをアーチャー内ラックに高速回転させて防衛型としても使用できる。に、2番を装備

### ビーム・シールド

1フィールドを専断に展開し、そこにミゾフスキー粒子を高速状態で収束させて、防衛効果を高める。多大な電力を必要とする一方、ビーム発生時のみを発行しているようなものである。実体型シールドに比べるとかなり軽量化で、非使用時にはスペースも取らない。



ビームシールドは、展開した状態で使用できる。

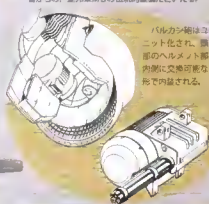


## 実弾兵器

F91は固定式の実弾兵器も装備している。ビーム・シールドを装備するクロスボーン・バンガードのMS群を相手にする上では、あくまで補助的な装備にすぎないが、威嚇や牽制目的での使用も前提としているのだろう。

### 頭部バルカン砲

高初めがみ弾に1門ずつ装備。RXシリーズの昔からの、連射型MSの伝統的装備だといえる。



バルカン砲はユニット化され、頭部のヘルメット内部に交換可能な形で内蔵される。



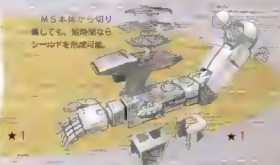
### 胸部メガ・マシンガン

胸部コクピット上方には、2門のメガロンのマシンガンが装備されている。シールドが使えない近接戦闘で効果的に使用されたという。



非使用時には、胸部前方に格納されたマウント・ラックに収めて飛行する。

MS本体から切り出し、短時間ならシールドを対応可能。



# F91 ガンダム F91

## 闘いの記録

### BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世紀 0093年 9月	地球連邦軍の戦術研究施設がサナリア(海軍戦略研究所)として再編される
0102年	サナリア、MSの小型化を連邦軍に提言
0106年	ロナ家、私設軍隊クロスボーン・バンガードを設立
0111年 12月	サイド4、フロンティア・サイドとして開港開始
0116年 7月	サナリア、F91をロールアウト
0122年 12月	F91、フロンティアIに導入される
0123年 3月16日	クロスボーン・バンガード、フロンティア・サイドを襲撃 コスモバヒロニア軍艦を襲撃 マイツァー、ロナらフロンティア軍に到着
16日	クロスボーン・バンガード、フロンティアI、軍を襲撃
22日	クロスボーン・バンガード、フロンティアII、軍を制圧
	F91、フロンティアIにてクロスボーン・バンガードのドレル大母と交戦 <b>[F91]</b>
26日	クロスボーン・バンガード、フロンティアIIにて、コスモバヒロニア軍艦を襲撃 クロスボーン・バンガード、フロンティアI制圧作戦を開始 F91、クロスボーン・バンガードの母艦と交戦 <b>[F91]</b>
30日	クロスボーン・バンガードの戦艦、艦隊でフロンティアIにて性能の発揮を企図 F91、バグの戦艦と戦戦 <b>[F91]</b> F91、ミララフィシアと交戦、これを撃破 <b>[F91]</b>
0127年	コスモ・バヒロニア軍艦

### BATTLE DOCUMENT 01

**RECORD**  
TIME: 110:01:23.9  
PLACE: フロンティアI  
ENEMY: クロスボーン・バンガードMS、テナン・ター  
クロスボーン・バンガードMS、テナン・ター  
パイロットはドレル大母

フロンティア・サイド(サイド4)に突如侵攻を開始した、クロスボーン・バンガード(以下C.V)。彼らの繰り出す新鋭MS部隊は、地球連邦軍の駐留部隊をつぎつぎ撃破していく。総崩れとなった連邦軍は、最新鋭機F91をはじめに、残されたわずかな戦力で反撃を開始する……。奇しくもパイロットになったのは、この機体に搭載されたパイオコンピュータ開発者の息子、シーブロック。彼は、はじめてとは思えぬ操縦でC.Vと渡り合い、地球連邦軍のMSがまったく歯の立たなかった敵を、単独で撃退するのだった。

### BATTLE DOCUMENT 02

**RECORD**  
TIME: 110:01:23.9  
PLACE: フロンティアI  
ENEMY: クロスボーン・バンガードMS、テナン・ター  
クロスボーン・バンガードMS、テナン・ター  
クロスボーン・バンガードMS、ビギナ・ギナ  
パイロットはバグ・ロナ、海軍艦隊員

C.VのMS群が、再びフロンティアIへの侵入を試みる。シーブロックは、母が開発に関わったというF91に母との絆を感じながら、出撃する。ビーム・シールドを装備し、通常のビーム兵器の通用しない相手、新兵器ヴェスパーで撃破する。F91は単機奮闘し、一気に敵の敵機と思しきMS、ビギナ・ギナに肉薄! だがその機体に乗っていたのは、戦火のなかで別れたガールフレンドのセシリーだった。C.Vを率いるロナ家の娘として出撃した彼女は、やがてシーブロックとともに生きることを選び、連邦軍へと投降する……。

クロスボーン・バンガードの攻撃に、長い平和な時代に慣れていた地球連邦軍は壊滅的な打撃を受ける。反撃の陣は最新鋭機、ガンダムF91。伝説的な名機の名を継いだこのMSが、新たな時代を切り開く。

## 母が造ったガンダム



F91の振るうビーム・サーベルが一閃し、敵を倒す! 初陣を勝利で果す。

真敵な旧世代MSとは異なり、F91は最も小型MS以上の機動力と攻撃力を見せる。



連邦軍MSをたやすく振りまってきたC.VのMSたちは、突如として自分たち以上の機動力を見せる機体に驚愕され、予備だにしまった反撃を受けることになった。



F91、飛び立つ!

## セシリーとの再会



C.Vからの投降者、アナマリイのダギルスと出撃するF91、ヘビーガン。

驚異的な  
ヴェスパーの威力!



脅く相手するやうに、シーブロックは敵機に近づき、その弱点を突く。





# 勝利への希望を背負ったガンダム

MS単独での巡航飛行までも可能となった時代。MSの機能性アップを推し進め、さらなる発展に導いた機体があった。「勝利」を冠した名前を持つ機体。Vガンダム。その名に込められた思いは、MSの新たな時代を切り開いた。

構成・文 石井 誠

## 地球連邦政府の疲弊と ザンスカール帝国の台頭

宇宙世紀21世紀の半ばに差しかかったU.C.0149年、人類の多くは宇宙に居を構え、その生活にすっかりなっていた。地球連邦に所属するスペースコロニーの数は数百にも膨れ上がり、それぞれの政庁の発行権も強大となった状況において、地球連邦政府は、それらの調停役として機能するのすらやっとならなくなった。

そんな弱体化した連邦政府を相手に、各コロニーでは、スペースノイドの自治権を獲得しようとする運動が再燃していた。その運動は、サイド内でのコロニー政行同一の結束による自治組織の誕生や、コロニー政行同一の戦況にまで発展。「宇宙戦国時代」でも呼ぶべき状況となっていた。そんななか、サイド2の中で地球から最も近いコロニー、アメリカにおいて、ザンスカール帝国が建国される。ザンスカール帝国は、強い結束力を持ち、軍備を固めることでサイド2を平定し、0152年に地球本土への侵攻を開始する。

多数のコロニー政府の中でも最も強大な力を持ったザンスカール帝国を相手に、徹底させていた地球連邦軍は、有効な反撃を行うことができ

なかった。ヨーロッパのラグーンにある飛行場は、ベスパと呼ばれるザンスカール帝国軍に占拠され、補給庫として機能。そこから、たかたか地球列強が行きわたるようとしていた。

## 勝利の象徴として復活した 伝説の機体、ガンダム

しかし、そんなザンスカール帝国に対して抵抗運動を行う組織が存在した。彼らの名は「神聖軍制同盟（リガ・ミリティア）」。民間の有志が集ったこの組織は、（歴史的につまづきにさらされている）巨大な資本や政治力を持つ存在のバックアップを受け、独自に反政の要となるMSの開発を行っていた。これは、旧態依然たる連邦製のMSを調達するよりも、より組織の特性や戦い方に適した機体を独自に開発すべきだとの判断を下したためである。ヨーロッパ各地で行われた、このMS開発計画は「V計画」と呼ばれ、新たな機体MSを誕生させる

抵抗運動の象徴として、歴代の英雄にちなむように「ガンダム」の名を冠したこのMSは、Vガンダムと呼ばれた。

Vガンダムは0110年代以降に小型化されたM



初期ガンダムが保持していたような高直性や、機体的にも革新的なものを備えた。

Sをさらに突き詰め、さまざまな状況に対応できるマルチプルMSとして設計されていた。そして、Vガンダムに搭載されたミノフスキー・フライトシステムは、重力下における飛行移動を可能とし、MS単体での長距離移動と軌道にあわせた航空戦闘を可能とするものだった。この機能によって、MSの行動半ばはおおに拡大することになる。

さらに、生産性を向上させる設計と、武装の増強や機能強化。追加パーツによる拡張性も見逃せない先見性も取り入れられていた。

MSの運用性や汎用性をさらに押し上げる機体となったVガンダムは、「ガンダム」の名に恥じない高い性能を有しているのももちろんだが、MSをさらに新世代へと進化させる礎ともなった機体でもあった。

## Basic Knowledge of G

### ザンスカール帝国の誕生と宇宙戦国時代

U.C.0120年のコスモ・パビロニアによる貴族主義の勃興を契機に、各サイドのコロニー各政府は、独立自治の方針を打ち出す。その中で0150年代に最大勢力を伸ばしたのが、ザンスカール帝国だった。

ヒーリング能力を持つマリア・ピア・アモニアを女王に擁立し、そのもとでザンスカール帝国は連邦政府支配からの脱却、地球淨化の推進、人間社会システムの新秩序を主張。一方、帝国内の美質的指導者であるフォン・カガチは、政治的武裝集団・ガチ党を結成する。マリアによる教養を重んじながら、中世の封建制度であるゼロチンを用いた。重演による恐怖政治を敷くことで、民衆の間に「結果を重んじた」その結果こそが、帝国を他のコロニー政府と全く異なる国家に成長させ、短期間のうちに驚異的な体制を築き上げたのだ。

地球連邦政府はこの動きを察知しており、政治組織としての立場を半ば放棄していたと見て過激ではない。



フォン・カガチ

ザンスカール帝国の宰相にして、ガチ党の党首。ベスパの権勢も執っており、帝国の事実上のトップ。恐怖と経済を同時に与える民衆の心を巧みに操作し、国力増進を推し進めることに成功する。



ザンスカール帝国軍（ベスパ）

ザンスカール帝国軍はサイド2の大量分を平定した際、駐留していた連邦軍の兵器や研究施設を接収し、軍備を強化。その際にVガンダムでスズメバチを意味する「ベスパ」の名で呼ばれ、恐れられた。



グロノバル・アジャー

女王マリアの実弟にして、帝国軍士官。ベスパの地球への先遣部隊「イエロー・ジャクット」を率いて、地球圏に侵襲。その際にVガンダムとはじめて遭遇する。以後、戦いの渦中に身を置くことになる。



#### SPEC

機動性 高  
本機重量 約  
全機重量 1 4780kg  
エンジン 2 4780kW  
機体サイズ 7300×6 440  
装甲材質 カタパウム合金スチール 7層合計  
武装 連射バレット砲×2  
ミサイル・ヘルメス  
ガン・ライフル  
2連射ミサイル×2  
1. ミサイル・ヘルメス (ストロング・アーム)  
2. ミサイル・ヘルメス (ストロング・アーム)  
3. ミサイル・ヘルメス

イラスト・小笠原智史

# LM312V04 VICTORY GUNDAM

# Vガンダム設計思想

正統軍でも企業でもないレジスタンス組織が推し進めた、先進的なMSの開発 それは、MSの行動範囲を変えるほどの画期的な新技術と、それを最大限に活かすことのできる機体構造の採用によって実現することができたのだ

## マルチプルMSとしての先鋭化と変形・合体機構

上半身、下半身パーツは「消耗品」という斬新な機体構造が見せた、マルチプルMSの姿

大規模な拠点を持たないリカ・ミリティアは、Vガンダムに運用性と壁面性の基を求めた。そこでコア・ブロックを中心に、上半身と下半身をユニット化し、「消耗品」的に運用する構造を採用。十分な施設や用具、資糧を期待できない状況下での整備・修理へと対応している。各部位は飛行能力を有し、戦闘中の破壊パーツ交換さえ可能だった。また、コア・ブロックは上半身、下半身ユニットのいずれかとのみ合体して戦闘機として戦闘を行え、そのままMS形態へと変形（全身のパーツが揃ってはいないものの）して対MS戦さえこなす。こうした多様な状況に即応できる本機には、かつてガンダムに求められた汎用性の高さはマルチプルMSとしての思想が息づいていると言える。



破壊した部位は一度だけしか交換できない。運用上と整備上を考慮して、運用と整備は別々に行う必要がある。



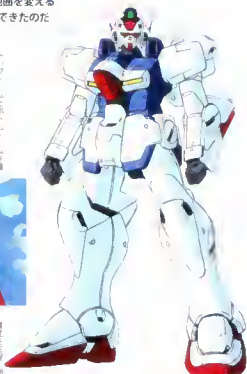
コア・ブロックと下半身ユニットを分離し、コア・ブロックを消耗品として運用可能にした。



頭ハノのみのみでは、破壊部とコアの両方を分離して運用は、パイロットの生存性と機体の機動性を向上させた。



機体と頭部を交換し、V字型のアンテナを伸ばし、センサー類と通信機能を強化したタイプ。量産機として多数が配備され、バックアップ運用している。



## LM312V06 Vガンダムヘキサ

V字型の頭部装備を交換し、V字型のアンテナを伸ばし、センサー類と通信機能を強化したタイプ。量産機として多数が配備され、バックアップ運用している。

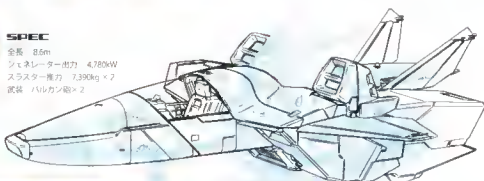
## コア・ファイター

ミノフスキー・フライトを実現した小型戦闘機

コア・ファイターには頭部のコンピュータ、胸部のコクピットと主推進器という重要部位が集中しており、コア・ファイターさえ回収すれば、少ない整備で何度でも出撃が可能となっている。また、Vガンダムの飛行機一機置っているのが、コア・ファイターに搭載されたミノフスキー・フライトと呼ばれる浮遊を可能にするシステムだ。これは、ミノフスキー粒子の形成する立方格子から生ずる斥力を利用して機体の浮力を補うもので、通常のスラスターと併用している。なおこのシステムはMS形態時にも、主推進機関として機能する。

### SPEC

全長 8.6m  
シネレータ出力 4,780kW  
スラスター推力 7,390kg × 2  
武装 バリカン砲 × 2



機体の可変性に伴い、コクピットには金魚型ではなく、半戦状態のモニターを採用している。



単独での戦力は低く、戦闘時はコア・ファイターのみを合体して運用が前提となる。

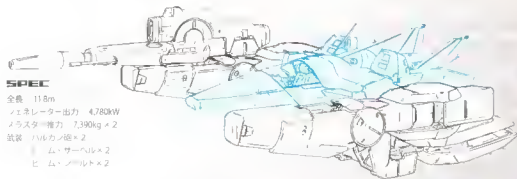


敵に取り囲まれてもコア・ファイターのみを合体して分離し、脱出が可能。



MSの頭部、胸部、主推進器のみを合体して構成。背部のわずかなスペースにミノフスキー・フライトシステムが収納されている。

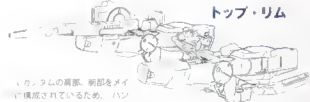




#### SPEC

全長 11.8m  
 エネルギー出力 4,780kW  
 メラスタール推力 7,390kg × 2  
 武装 バレル×2  
 ム・サーベル×2  
 ビーム・リフレクト×2

#### トップ・リム



バックラムの関節、関節をメイ  
 ムで構成されているため、ハン  
 カーとも呼ばれる。分離時はリ  
 モーターで制御される。

M5に形成せずとも  
 この形態のままでもビ  
 ム・リフレクトを繰り返し  
 防御を行うことが可能。

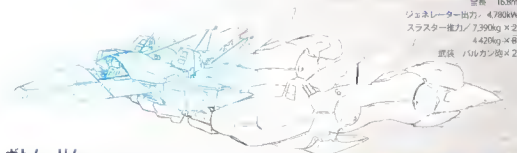


## トップ・ファイター (コア・ファイター+トップ・リム)

### 多彩な武装を執行できる重戦闘機

M5時に両肩、関節部と腰部アーマーを構成する  
 トップ・リムと、コア・ファイターが合体した形態  
 ビーム・ライフル2挺の搭載に加え、4カ所のハード  
 ポイントに追加武装を装備できる。重戦闘機形態であ  
 る。俊捷性能やビーム・リフレクトによる防御性能が高  
 く、輸送機の護衛や制空権確保などの任務にも活用さ  
 れた。

M5形態から分離し再行す  
 るにも、一応形を維持している



#### SPEC

全長 16.8m  
 ジェネレーター出力 4,780kW  
 スラスタール推力 7,390kg × 2  
 4,420kg × 2  
 武装 バレル×2

## ボトム・ファイター (コア・ファイター+ボトム・リム)

### 加齢性に優れた重攻撃戦闘機

M5時に両脚部と腰部を構成するボトム・リムと、  
 コア・ファイターが合体した形態。ふくらはぎと腰部  
 に補助推進機関があり、高い航行性能を発揮。機体側面  
 と下部に2カ所ずつ、計4カ所にハードポイントがあ  
 り、ビーム・ライフルやその他の追加武装を装着する  
 ことができる。俊捷性にはいささか劣るものの、機体  
 性能を活かした高速移動による追撃などで活躍した。

#### ボトム・リム



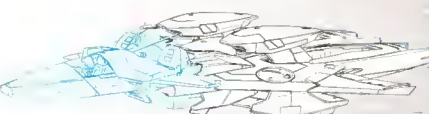
機体の大部分が関節ハブで占められるため、ブーツとも呼ばれる。質量  
 が大きく、時には実体弾として、体当たり攻撃にも使われた。



機体の両側面にそれぞれ1カ所ずつ、  
 合計2カ所にハードポイントがあり、  
 追加武装の取り付けが可能。



機体は非常に大きく、重量も非常に  
 重いため、高速移動には劣るが、  
 機体の両側面にハードポイントがあ  
 り、追加武装の取り付けが可能。



## LM312V04 +SD-VB03A Vダッシュガンダム

#### SPEC

全長 15.2m  
 全高 10.2m  
 全幅 10.2m  
 ジェネレーター出力 4,976kW  
 スラスタール推力 93,380kg  
 129,010 × 2 4,420 × 2  
 装甲材質 ガンダリウム合金  
 スーパーセラミック複合材  
 武装 機体、バックラム、  
 オーバーハング・バック  
 セット、バックラム・バレル×2  
 ビーム・サーベル×4  
 ビーム・スモークガン  
 ハフツビーム・サーベル  
 ビーム・ライフル (バインドガン兼用)  
 ビーム・リフレクト×2

## Vダッシュ・コア・ブースター (コア・ファイター+オーバーハング・バック)

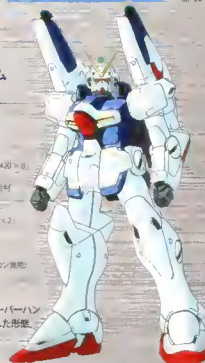
### 大出力スラスタとキャノン砲を装備

追加武装、オーバーハング・バックとコア・ファイターが合体した形態。  
 基本武装の強化に加え、航続距離の延長を実現している。ハードポ  
 イントの増設によるさらなる武装の追加も可能で、コア・ファイターの性能  
 は大幅に向上している。オーバーハング・バックはM5形態時には機体  
 背面に背負うように配され、オーバーハング・キャノンと呼ばれる。



オーバーハング・バックを装備したま  
 までトップ・ファイターへの変形も可能。

Vガンダムにオーバーハン  
 グ・バックを装着した形態。



# Weapons of LM312V04

Vガンダムの汎用性の高さを変えた要因のひとつは、多種多様な武装を機体に容易に搭載することを可能とした、新しい武装強化システムだった。

## ハードポイントを活用した 武装強化システム

当機は変形、合体により戦況に対応するだけでなく「ハードポイント」と呼ぶ規格化されたマウント部品を機体各部と装備の双方に設けることで、多種な武器の機行を可能とし、運用の幅をさらに広げていた。またこのシステムにより、飛行形態時の武装強化とM5形態時の予備武装の確保をも実現していた。ちなみに、ライフルやバズーカなど通常はマニピュレーターを使って操作する武器も、ハードポイントに装着することで、トリガーを引かずとも発射することができる。



## V2ガンダムのハードポイント



## 腕部×4

両腕の肘関節部分の両サイドにそれぞれ1基ずつ備える。ちなみにライフルは、M5の手での機行も可能。



## 脚部×2

ボトム・リムの機体底部に位置するハードポイント。ビーム・カノンなどを搭載することが多かった。



## Vガンダムの ハードポイント

Vガンダムには、胴部・腕部・機動と全部で8ヶ所のハードポイントがある

## 腰部×2

ナトム・リムのハードポイント・ビーム・ライフル・ビーム・スマートカノンなど大型武器を装着することが多かった。



## ハードポイントの配置

ハードポイントは、M5形態時では動作の妨げにならない場所に、飛行形態時では機体の側面や底面などの、攻撃に適した場所に配置されている

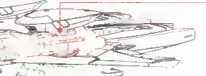


## Vダッシュ・コア・ブラスターのハードポイント

機体上面に2つ、底面に3つと計5基の追加武装を行うことできる

## ビーム・カトリックカン

## ディスポーザブル・バス



## 4連装ミサイル・ポッド

Vダッシュ・コア・ブラスターの試製実用等系の武装を搭載し、1ミサイル発生機を4連装の砲への攻撃に特化した仕様にすることも可能

## ビーム・スマートカン

ビーム・スマートガンなどの大型の武装は装着場所が限られるが、ボトム・リムから装着することができる

## ビーム兵器

UC.0150年代は、ビーム兵器の運用性がアップ。特にビーム・サーベルやビーム・シールドにおいては、1フィールド制御技術が強化されているのが特徴だ。

### ビーム・ライフル

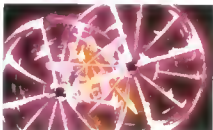
Vガンダムの主武器。たとえ砲身が破壊されてもブリーフ周辺部が稼働していれば、ビーム・ライフルとして使用することが出来る。



### ビーム・サーベル



前腕部に内蔵している接近戦闘兵器。ビーム刀は真鍮く製。ただでなく、基部で盾子のように広がり、防衛にもなる。



### ビーム・シールド

ビームを弾頭に展開した防御兵器。ビーム・実弾弾の両方の攻撃を防ぐことができる。ビーム・サーベル同様、攻撃にも使用可能。



### ビーム・スマートカン

ビーム・ライフルよりも高い攻撃力を持つ。ロングレンジ・ビーム・スマートカンに後継し、折りたたんだ状態でも発射できる。



### 八つ手ビーム・サーベル

長い柄と3本に分かれたビームが特徴。1つのある攻撃を行える。ビーム・サーベルと手繰り合わせビーム・シールドを展開可能。



### ビーム・キャノン

腰部両サイドのハートポイントに装着する、固定式のビーム兵器。メイス・ハート型化したような形状で、普通弾能力は優れている。



### オーバーバング・キャノン

オーバーバング・バウが備える2門の大口径ビーム砲。取り外して使う可能。射撃距離は短いが一撃あたりの威力は極めて高い。



### ビーム・カトリックガン

Vガンダム用に開発された、透射性の高い兵器。劇中ではVガンダムにのみ装備されず、ウイングの機体にも使用した。



## 実弾兵器

この時代においてMSの武装は、完全にビーム兵器が主力となっているが、変種用火器としてまだまだ活用される実弾兵器も、Vガンダム用に開発、運用されている。

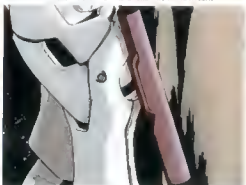
### 4連装ミサイル・ポット

胸部や腰部に装着するミサイル兵器。対ビーム兵器を持つ機体に対し、有効な攻撃を行うことができる。V2ガンダムでも使用。



### ディスボウザブル・バス

使い捨ての単発式バズーカ砲。1つのハートポイントに対し、横に並べて2基同時に装着することも可能。劇中では未使用。



### 頭部バルカン砲

近距離戦での制圧などに使用する。ガンダムに伝統的に装備されている実弾兵器。コア・フューチャー形態時には唯一の武装となる。



## 闘いの記録

勝利への希望を託されたガンダムと、故郷を守るために戦った少年。運命とも言えるこの出会いが、宇宙戦国時代に一筋の光明をもたらす。Vガンダムとウッソが駆け抜けた、闘いの舞台を振り返ってみよう。

### BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世紀 0139年	リガ・ミリティアの破壊が、民間を中心に持ち上がる
0146年	マリヤ主権の風説、サイド2のアメリカ・コロニーにて政治的比が予見を継続
0147年	ガチ発、アメリカ・コロニーの選挙考案に
0148年	リガ・ミリティア、実戦部隊として再編成
0149年	サイド2においてガチ発、ザンスカル軍団の機密を宣言
	リガ・ミリティア、V計画を開始
0152年10月	ザンスカル軍団のイエロー・ジャケットが機密のラゲーンに襲撃
0153年4月	リガ・ミリティア、Vガンダムの開発に成功
6日	Vガンダム、イエロー・ジャケットと交戦 <b>特報</b>
8日	新機種のリガ・ミリティアが暴発
29日	リガ・ミリティア部隊、ザンスカル軍団(ベス/MS)の宇宙軍カラス・ギリーを制圧 <b>特報</b>
5月4日	リガ・ミリティア部隊、スズラン部隊と交戦 <b>特報</b>
7日	リガ・ミリティア部隊、マケドニア・コロニーに襲撃
10日	ベス/MSのモッド部隊、月面より発進
24日	モッド部隊、メキシコ国より上陸、北米大陸を北上
28日	ザンスカル軍団と地球連邦の両方で機密決定が継続
6月8日	ベス/MS、ラゲーン基地に侵襲、リンホルムとロビン・アーク、手奪へ
12日	リガ・ミリティア部隊、ベス/MS部隊を包囲
21日	エンジェル・ハイロウ、機密に落下
28日	ベス/MS部隊連発、フォンセ・カガチ死にエンジェル・ハイロウ、太陽系上層で分解し、後に大規模計画

### BATTLE DOCUMENT 01

**RECORD**  
TIME: UC0153.4.6  
PLACE: ラゲーン近海  
ENEMY: ベス/MS、V/O  
ベス/MS、トムリアット  
パイロットはクロノクル・アジャー、他

故郷カサレリアで、ザンスカル帝国のイエロー・ジャケットとリガ・ミリティアの闘いに巻き込まれた少年、ウッソ。人々を守るため、ウッソは奮闘する。激しさを増す闘いの中で、リガ・ミリティアのメンバーに代わって戦闘機、コア・ファイターを駆るウッソを、敵MSが狙う。あわや、という瞬間、コア・ファイターはリガ・ミリティアの工場から射出された2機のメカと合体し、白いMSと化する。その姿は、最強のMSとして名を馳せた伝説的名機、ガンダムによく似ていた。ウッソの運命は今、大きく動き始める――

## ガンダムと少年



激の新機MS、ジャックコーを奪い取り、闘うウッソ。これをきっかけに、ウッソはリガ・ミリティアの戦闘員に乗り込むことになる。



合体したメカは、「勝利」の名を冠するMS、Vガンダムに劣らず、圧倒的な力で敵MSを退けた。

### BATTLE DOCUMENT 02

**RECORD**  
TIME: UC0153.4.27  
PLACE: 衛星軌道カラス・ギリー本拠地  
ENEMY: ベス/MS、コンティ  
パイロットはクロノクル・アジャー

衛星軌道上から地上の拠点をビーム攻撃可能なザンスカル帝国の宇宙要塞、カラス・ギリー。地球に住む人々からすればこの要塞は、まさしく頭上の脅威だった。これを攻略せんとするリガ・ミリティア隊の中に、ウッソの姿もあった。しかし彼は、あまりに激しい戦闘に恐怖を覚え、身を隠させる。だが、シュエラ隊のジュンコ・ジュンコの叱責を受けると同時に彼女の闘いぶりを目にして、ウッソは自分を取り戻す。やがて彼は、新たな武器、ハフ手ビーム・サーベルとビーム・スマートガンも駆使して、カラス・ギリー奪取に大きく貢献するのだった。

## 戦略衛星カラス・ギリーを叩け



死の恐怖を感じ、本来の力を発揮できないウッソは、次第に追い込まれていく。



## 死の恐怖を乗り越えて……





## RECORD

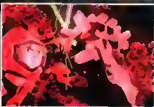
TIME: LUC015354  
PLACE: ザンスカール帝国  
ENEMY: ZMS-14S, リグ・シャッコ  
パイロット: MS, コンティオ  
パイロット: カテジナ・ルース  
クロノクル・アッシャー

ザンスカール帝国本国に到達した  
ウッソたち。コロニーから脱出するた  
めにリアを人質にするが、その行動  
は阻止され囚われの身に。見せしめ  
に罰かれたVガンダムを仲間たちが等  
温し、再び脱出の話を聞くが、かつて  
の仲間、カテジナが立ち塞がる。一方  
コロニーの外では、総攻撃の準備が進  
んでいた。Vガンダムで、宇宙空間  
での戦闘に突入するウッソ。リグ・ミ  
リティアはカイルス・ザリで停ったビ  
ッグキャノンに敵艦隊に向けるが、そ  
こには爆弾が仕掛けられていた。ジュ  
ンが爆弾を解除しようとするも失敗、  
彼女は爆風のなかで消える。機体から  
降りたウッソはビッグキャノンに取り  
付きビームを発射、敵艦隊を撃ち負く。

リアを人質にするウッソに、  
クロノクルの非情な攻撃が迫る。



リアを運んだ脚部が失われ、  
ウッソたちは囚われの身に。



再び脱出を図ったウッ  
ソを助けるのは、変わら  
なかったカテジナだった。

### 仲間の死、 そして新たな決意



ビッグキャノン防衛のため、Vガン  
ダムは勇猛果敢な戦いを繰り返す。



外壁を乗り越えコロニー内部へ突  
入したリグ・ミリティア部隊は、  
Vガンダムを宇宙へと送る。



最終の戦場で敵艦隊を必  
ずとするビッグキャノンの引  
き金、ウッソが引き絞る。

## PILOT

Vガンダムを奪った抵抗組織の戦士たち

### ウッソ・エヴィン



#### PROFILE

Vガンダムの少尉(パイロット)。運命に引きま  
せられるように、再戦が繰り返された機体に慣れ  
に慣れ、戦いに身を投じていった。

### マーベット・フィンガーハット



#### PROFILE

戦場の果てに待つVガンダムの女性パイロット。  
Vガンダムへキザな口調で話しかけながらも、真  
実な心を持って、ウッソの精神面での成長を促す。

## THE RIVAL

リグ・ミリティアにとって脅威となったザンスカール帝国のMS

### ZM-S14S コンティオ

#### SPEC

全長/16.1m  
本体重量/18.8t  
全機重量/21.8t  
ジェネレーター出力/3,500kW  
スラスター推力/35,740kg  
装甲材質/ハイテク合金+セラミック複合材  
駆動/脚部ヒール駆動×3  
ビーム内蔵式ショット・クロウ×2  
ビーム・ライフル  
ビーム・サーベル×2  
ビーム・シールド



宇宙用攻撃型MS。両肩にビーム・サー  
ベルとしても使用できる有軌式のショット・ク  
ローを装備し、オールレンジ攻撃を仕掛ける  
ことが可能。クロノクルが空間戦闘に要領。

### ZM-S22S リグ・シャッコ

#### SPEC

全長/15.5m  
本体重量/18.2t  
全機重量/18.8t  
ジェネレーター出力/3,500kW  
スラスター推力/37,700kg  
装甲材質/ハイテク合金+セラミック複合材  
駆動/ビーム・ストリングス×2  
ハイパー・ビーム・ガン×2  
ビーム・ライフル×2  
ビーム・サーベル×2  
ビーム・ファン×2  
ビーム・シールド  
ビーム・ローター・シールド



試作MSシャッコの進歩機として、汎用  
性を高めた機体。攻防一体型の新兵器。ビ  
ーム・ファンを備える。ザンスカール帝国に達  
ったカテジナが搭乗し、ウッソを苦しめた。

# U.C.0100年代のMS技術革新

小型で高性能な、第2期と呼べる時代のMS群の、進化の道筋を辿ろう。

## MSの小型化の兆し

### U.C.0096 ~ 0109

MSに新たな時代が訪れたのは、その誕生から四半世紀ほど経った。U.C.0090年代後半のことだ。新機軸の最大の特徴は機体の小型化。それは、ネオ・ジオン残党に対処するため設けられた地球連邦軍の特殊部隊エコースが、特殊な建物やコロニーなどへの突入任務や対MS戦、果ては兵員輸送にまで対応できる、小型MSを求めたことに端を発する。それに応え、突入任務をこなせる装甲車程度への可変機構を備えたMSの開発を担当したのが、連邦軍の海軍戦略研究所（サナリィ）であった。サナリィは、連邦軍周辺の組織としては最も早い段階でMSの小型化という経緯を積み、データ収集を行いはじめたため、後に訪れるMS小型化をリードできたといえる。

### D-50C ロト

小型MSとして連邦軍に制式採用された、最初の機体。MS形態時の全高12m。戦車形態に運用し、8名の兵を乗込可能。



### RXR-44 ガンタンクR-44

サナリィがタウン・サイニングの道を探る過程で生まれた機体。ロトの発展形と考えられ、0100年代には古さが目立っていた。



### RGM-109 ヘビーガン

Aエッジ・カンを基に開発した。性能は悪いとは言えないが、製造や運用コストの大幅削減など、MSを小型化するメリットが確認された。



その後もサナリィはカンタンクR44などを開発し、MSの小型化によって軍全体の経費削減と、MS運用のさらなる効率化が可能であるという報告を行った。その結果、連邦軍はシェンガに代わるト力ムスに、小型機を採用することを決定する。それを受け、アナハイム・エレクトロニクス社（以下、A社）は（半ば強制的）小型機用MSの第1号として、0109年にヘビーガンを完成させる。しかし、当初目的としていた性能を発揮することはできなかった。

## ブッホ・コンツェルンのMS開発

### U.C.0108

コスモバースト差を引え、新しい政治体系を生み出すようにしていたクロスボーン・ハンガート。彼らの時代であるブッホ・コンツェルンはシャングハイ工業にはまり、最終的には航空・航宙機製造を手がけるまでに至った人財庫であった。

事業のなかで培ってきた技術を用い、彼らは小型で高性能なMSの開発をスタートさせた。ただし機体の小型化は、理想実現のために必要な性能を追求した結果で、コストはある程度度外視されている。

作業用MSに転換して、最初に関係されたデノサ・タイプと呼ばれる機体は、シェネレーターを機体外部に設置し、本体は機体出力の面を重視することで、小型MSとしての完成度を高めていた。また同時に、距離感の認識に優れ、高度な立体解析能力を持つハイブリッドセンサーを応用させている。やがてブッホ・コンツェルンは、近接戦闘用MS、デナン・ソンの開発を開始。さらに、指揮官用のヘルガ・ダラスを生み出すことで、連邦軍に代る形で、高性能な小型MS部隊を手にする。

それら小型MS群の活動性は、0123年3月の、連邦軍への宣戦布告とも、あるいはフロンティアIVへの奇襲により実証された。

### XM-01 デナン・ゾン

「ロスオー・カート」の、量産型MS。左腕に固定したヘルガの形成度を持ち、旧世代傳承であるシカンとの性能差を見せつけた。



### XM-05 ベルガ・ギロス

「ホー」を基に指揮官用として開発したヘルガ・ダラスを、さらに強化した機体。重性能と機体の軽量化と、さらなる技術向上が図られた。



### XM-07 ビギナ・ギナ

ヘルガンコースを発展させた、指揮官用試作機。可動式スラスター・フュー・ノズルを搭載し、機動性を大幅的に追求している。

## フォーミュラ計画の始動

### U.C.0111

A社との協力的な対応を見たサナリィは、独自に次期主力MSの開発計画である「F計画」に着目する。この計画では、MSの弱点への回帰を伺い、小型かつ高性能でシンプルな機体の開発を重視していた。また、コンセプトのみならず、外観や、さらには簡潔で、一年戦争時に活躍したガンダムを強く意識していた。

やがて、マイクロニウム構造の採用によるガンタリウム性能を成す新素材、多機能装甲、擬似人格コンピュータなどの画期的新技術の数々を盛り込まれた、ガンダムF90が完成。さらに、ガンダムF90の技術をフィードバックして開発された、中距離支援型のF71 Gキヤノンが完成するにまで、連邦軍における高性能小型MSの量産化も実現していた。

続いて、この時点でのMSの境界性能を1指し

た機体。『タム・191』の登場により、クロスボーン・ハンカートに水を掛けられていた技術レベル格差も埋まり、小型MSはひとつの完成形となったといえる。



F71  
Gキャノン

『タム・191』のF71は、機体構造と高い性能を持つ機体。1/4サイズの小型MSの標準仕様に大きな影響を与えたといわれる。

## コスモ・バビロニア建国戦争後のMS

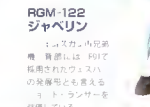
### U.C.0120 ~ 0150

旧20年代以降、MSの趨勢は完全に小型機へと移り、それはF計画のひとつの到達点であった。1力MとしてRGMシリーズの型式番号を受け継ぐメススキャン・バビロニアの機体が誕生し、F91に見られたコンセプトの1部は、そこに引き継がれていた。だがその後、0150年代まで、MS開発はいくつかの困難を迎えていたといえる。なにより、連邦軍はもとより、地球連邦政府といういかなるシステムそのものも成り立ち、かつての趨勢を次第に失っていったのだから。



RGM-119  
ジェスガン

0120年代における地球連邦軍の地上用主力MS。セーム・シールドを装備し、小型MSの基本武装が完成している。



RGM-122  
ジャベリン

メススキャン・バビロニアの発展型としてF91で採用されたウェスハの発展型とも見える。オートランサーを装備している。

## ザンスカール帝国のMS開発と民間組織によるガンダムの誕生

### U.C.0152

新興国家 ザンスカール帝国が小型MSの開発に注いでいたのは理由がある。帝国軍の1力であるヘスバは、サイトとの連邦軍駐留部隊を襲撃して設立されたが、ここには連邦軍の小型MS開発を推進させた。サナリィの支援もあった。たがヘスバは、重力下におけるサブ・フライト・システムに似らないMSの高速・機動技術の開発に力を注ぎ、ヒーム・シールドの技術をも利用したバギー・ローターによる巡航飛行を成功させる。1部は、この技術の研発を契機に地球内政戦争が開始されたとして、われている。

ヘスバのMSの多くは「ネコジ」と呼ばれる、独特の形状を持つ複合マルチセンサーを採用している。これは、可視光線の帯域に含まれない波長を感知する素子で構成されており、高速度な映像と高データを集結できる。優れたものであった。ザンスカール帝国は、さまざまな機能や新機軸を盛り込んだ試作MSを戦場に投入し、それに

ZM-S06S  
ゾアラット

ザンスカール帝国は、しめての軍事力。宇宙戦能力を備え、その性能の高さから、帝国に地球内政戦争を主導せしめると言われる。



ZM-S08G  
ソロ

MS1 単独防衛能力を運用するための新機軸。ヒーム・ローターを採用した。初のMS1 地球内政戦争の主力として活躍した。

ZM-S22S  
リグ・ジャッコ

0152年に、作戦の次期主力MS1 として投入された数々の試作機の一つが反映されている。近衛防衛用システムも存在する。



よって得た。タを活かした単座機を製造していた。命取機や伏撃型、ワンオフ機に近いMSも多々登場したが、1力となる汎用MSの製造と速やかな配備にも抜かりはなかった。

活気に満ちた、といえるザンスカール帝国のMS開発状況に対し、連邦軍は新型MSの開発を行う力は弱まっていた。1力となっていたのは、すでに30年近くも稼働している機体であった。

ザンスカール帝国に対する抵抗運動を行っていた民間組織リガ・ミリティアは、こうした連邦軍の旧世代の戦力を集めるよりも、独自にMSを開発した方が効果的と活動を行えたと判断し、新型MSの開発計画、V計画を開始。両側の飛行技術、ミノフスキー・フライト・システムを有するマルチフルMS、Vガンダムを完成させる。さらにV計画で培った技術を活かしながら生産性の高いスタンダードMS1 カンイーンを量産することで、ザンスカール帝国に対抗した。

この時代、MSは最大のワークポイントであった移動の問題を克服し、万能兵器的な能力を身につけたわけだが、それらは、新興国とそれに対抗する連邦軍の組織が、出したものだった。

LM312V06  
Vガンダムヘキサ

V計画によって完成したVガンダムのセクシーな機体。V計画のコンセプトを具現化した。Vガンダム・フライト・システム・フライト・システムによる飛行を行う。



LM111E02  
カンイーン

Vガンダム開発の過程で生まれた試作機から、量産機を経て生産性や整備性を向上させながらも、高性能を維持した量産機。

LM111E03  
ガンブラスター

カンイーンを、宇宙空間に改良し、機動性と航続距離を大幅にアップさせる。ブースター・バックロイ・システムを装備した機体。



# 秘めたる力で“変身”するガンダム

地球連邦政府を覆すと言われる「ラプラスの箱」。そしてその箱の開放の「鍵」こそ、地球連邦宇宙軍再編計画内でも極秘のUC計画から生まれたMS、ユニコーンガンダム。フル・サイコフレームの秘い輝きが闇闇見せる、この機体に秘められた能力とは？

構成・文・石井 誠

## 謎の地球連邦宇宙軍再編計画——UC計画

UC0096年、シャアの反乱と呼ばれる第2次ネオ・ジオン戦争から3年が経過し、サイド3のジオ共和同盟を打ち倒した。1年戦争から始まったジオニズム闘争は、過去のものになろうとしていた。そんな世相にあっても、ジオンの名を継ぐ軍事組織が消滅したわけではなかった。袖に特殊な装飾を施したMSを駆り、「袖付き」と称されるジオン残党部隊（規模は小さく、地球連邦軍からは正規軍ではなくテロリストグループと見なされていた）が、次第に活動を活性化させていた。そんな中、地球連邦宇宙軍再編計画（その内容は明らかにしていない）の枠内で、UC計画と呼ばれるプロジェクトが秘密裏に進行してお

り、その要として新たなMSの開発がアナハイム・エレクトロニクス社（以下、A.E社）によって行われていた。厳重な情報管理のもとで進捗したため、計画の詳細が漏れ伝わることもなかった。しかし、A.E社が管理する工業コロニー、インダストリアル7で起こった騒動により、UC計画の一端が、思わぬ形で世に露呈することになる。

## 新たな駆動式内骨格を導入した、謎多きガンダム

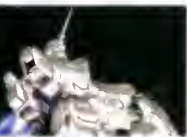
事件当時インダストリアル7では、ビスト財団と袖付きの間で、地球連邦政府を転覆させかねないと言われる「ラプラスの箱」譲渡に関する交渉が行われていた。それを阻止しようとした連邦宇宙軍と「袖付き」の間に、激しい戦闘が起こり、コロニーは戦火に巻き込まれる。そこには、「袖付き」のMSを逆撃する見知らぬ機体の姿があった。それは最終調整を待っていた、UC計画のフラグシップ機、ユニコーンガンダムだった。ユニコーンガンダムは、前の第2次ネオ・ジオン戦争において初めて採用された、サイコフレームの技術をより本格的に導入している。

パイロットの脳波や感情波（サイコウェーブ）



「機体は、変身をする」  
ガンダムの機体は、  
ガンダムの機体は、

を受信・増幅するデバイスであるサイコミュ。サイコフレームは、超小型サイコミュ・チップを構造材に押込み、それをコクピット回りに採用することで、構造材を高効率のサイコミュ装置とするものだった。ユニコーンガンダムはム・ハバール・フレーム全体にサイコフレームを使用することにより、「圧倒的な追従性の良さを持つ 思考するだけでなく、推察が不要な 機体として製造されているらしいが、内容は解明されていない」フレームの拡張と装甲の展開によりデストロイモードへと「変身」した本機は、信じがたいほどの機動性を見せるが、それがフル・サイコフレームの恩恵にのみよるものなのか、そしてなぜそのような性能を与える必要があったのか、何一つ明らかになってはいないのだから。また、各師団が目色を変えて欲する、ラプラスの箱との関係性も不明である。UC計画には、どんな秘密が隠されているのだろうか？



ユニコーンガンダムの機体は、  
ユニコーンガンダムの機体は、

## Basic Knowledge of G

### 第2次ネオ・ジオン戦争以降の状況

ジオン・ズム・ダイクンの遺児であるシャア・アズナブルことキャス・レム・ダイクンが起こした第2次ネオ・ジオン戦争は、地球を人間の居住できない環境にすると同時に、アースノイドの捕獲を目的とした。だがこの戦いは、新生ネオ・ジオン軍の総帥であるシャア・アズナブルが生死不明となり、終結した。結果、極端者不在の組織は力を失い、自然消滅的に消えていくと考えられた。しかし、一人の人物の登場が状況を一定させる。「シャア」の再降、と呼ばれるフル・フロンタルが登場し、その力によって旧勢力のネオ・ジオン軍を復興させたのだった。そうした状況の中、その敵は地球連邦政府を覆すほどの力となると言われる、「ラプラスの箱」を秘蔵するビスト財団が、「箱」の譲渡を巡って「袖付き」と接触する。「箱」の影響力を知るA.E社と地球連邦軍もその行動を見逃さずとこはなく、小規模だった地球圏に新たな争いの火種が発生することになるのだった。

**地球連邦軍（ロンド・ベル隊）**

UC0090年に設立された、地球連邦軍の外郭部隊。2ガンダムの流れを汲む可変MSシリーズを開発する。インダストリアル7での戦いを契機として、「ラプラスの箱」を巡る大きな運命に巻き込まれることになる。

**アナハイム・エレクトロニクス社**

宇宙世紀の軍事産業を誇る上で、外資としての出来栄は巨大企業。ビスト財団とは深い関係があるようで、「ラプラスの箱」の譲渡を拒否すべく、さまざまな手段を用いて阻害する。

### 歴史の狭間に消えると思われたジオンの名が、生き残っている状況とは？

**ビスト財団**

地球圏全体に強大な影響力を持つ財閥企業。A.E社にUC計画の推進と、ユニコーンガンダムの開発を行わせた。一方で「袖付き」と接触してラプラスの海を譲渡しようとし、それにより戦いを始めることが発覚した。

**ラプラスの箱の取引と権限**

**ネオ・ジオン軍**

フル・フロンタルが率いる、「袖付き」と呼ばれる旧勢力。その規模に見合わない影響力をもっており、政治的・軍事的活動を行う。「ラプラスの箱」とユニコーンガンダムを巡り、ロンド・ベル隊と争うこととなる。



# SPEC

全高 18.8m  
 本体重量 42t  
 全機重量 42t  
 エンジン出力 1450kW 10機搭載  
 スラスター出力 142,600kg (計4機)  
 センサー有効半径 22,000m (計測不能)  
 装甲材質 ガンダリウム合金  
 武装 頭部 60mmバズカン砲×2  
       ヒーム・サーベル×4  
       ヒーム・マシンガン  
       バズカー×2  
       ヒーム・ドリリングガン  
       バズカー  
 動力 コアはデストロイモーター



# RX-0 UNICORN GUNDAM

イラスト：小笠原聖史

# ユニコーンガンダム of 設計思想

このMSの誕生の経緯には、高性能な兵器を生み出そうという目的とはまた別の、何者かの、なんらかの強い意思が介在しているように思われてならない。

## パイロットを自ら選ぶガンダムに搭載された、謎のシステム

搭載された未知のシステムが持つ力、そしてその目的……この機体は数々の謎を孕んでいる。

ユニコーンガンダムは、登録された搭乗者（そうなるには、なんらかの資質や資格が必要らしい）でなければ、機体の能力をフルに發揮することができない。いうなれば、機体が自らを操縦する者を選ぶのだ。このような特殊なシステムを採用している理由は今のところ不明。どうやら、特定の条件を満たすことで「プラスラの羅」の所在地へと辿り着くための道程を示すという、ユニコーンの機体に組み込まれた「プラスラプログラム」と関係しているらしい。

### 生体認証システム



ユニコーンは、起動時に、生体情報の登録を要する。それ以後、登録された人物以外では、機体を動かすことがなくなる。

### NT-D



特定条件下で起動するフロム。機体の機能制限を解除する。起動条件は「特定のパイロットや環境によるものがあるが、未だ不明」。

### コクピット



NT-Dの稼働時にはシート形状が変形することで、操縦者の脳波を受信しやすくする。

## リミッター解除による“変身”

NT-Dの発動とともに、ユニコーンガンダムはその姿形を、大きく変貌させる。

リミッターが解除されると、ユニコーンガンダムはデストロイモードへと“変身”するが、機体の外観が変化するだけでなく、性能も飛躍的に上昇する。戦える性能を限界いっぱいまで発揮するとともに、パイロットの脳波をダイレクトに受信し、思考による機体の完全な操作を可能とする。ただしサイココミュによるパイロットの脳と精神への、そして加速による肉体への負荷の問題があり、稼働時間は5分間が限界となっている。

### ユニコーンモード



“二面顔”のようなアンデスと純白の機体色が特徴的。ユニコーンガンダムの通常形態。連邦軍の重産型MS群より基本性能は高いが、専断方法などは他のMSと変わらない。

### モード変換プロセス



この段階で装甲の解明。体積は一回り大分化。また、肩が左右に開き、ガンダムの顔が現れる。



### デストロイモード



偏角移動と発射かうほととの機動性を誇る。露出したバルムの爆発は、移動時には軌跡を残す。

# Weapons of RX-0

一見すると、ごくオーソドックスなものを揃えた印象を抱く、ユニコーンガンダムの装備。しかしそれらは機体同様に、強大な力を秘めているのだ。

## MSの常識を超えた最新鋭装備

本機のために用意された装備は、この時代のMSとしては当たり前ものばかりに見えるが、実はそれぞれが、標準的なものに比べて性能は人知れずアップしている。なかには、これまでMSでの運用は考えられなかった、先進的な機能を持ったものも存在する。

### 防衛装備

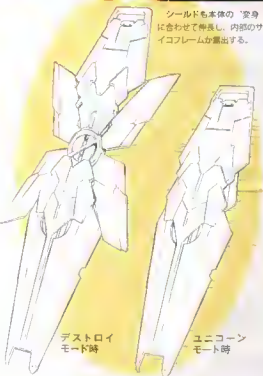
ユニコーンガンダムのために用意された専用シールドは、物理的な防衛機能だけでなく、かつてはMS本体への搭載すら考えられなかった、1フィート発生時に耐ビーム機能を備えている

#### シールド

前腕部もしくはバックパックにマウントしての運用が可能。1フィートによるビーム攻撃の無効化は、ユニコーンモード時にも有効だ



シールドも本体の「室身」に合わせて伸長し、内部のサイコフレームが露出する。



デストロイ  
モード時

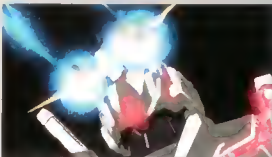
ユニコーン  
モード時

### 実弾兵器

ユニコーンガンダムの実弾兵装は、現在のところ固定武装である頭部バルカンのみが明らかとなっている。しかし今後実行火銃として、バズーカの登場も予定されている。

#### 頭部バルカン砲

2門の60mmバルカン砲を装備。これのみ、他の一般的な標準MSと同等の性能となっている。「室身」による干渉はなく、ユニコーンモード、デストロイモードの両形態で運用することが可能。



### ビーム兵器

ユニコーンガンダムの基本装備となるのは、やはりビーム兵器。サーベルは背部の2本に加えて、前腕部にも各1本ずつ装備している。そして、火銃はビーム・ライフルを大きく凌ぐ火力を持つ。ビーム・マグナムを使用することが可能だ

#### ビーム・サーベル

ユニコーン専用のものを装備。通常は、基部で折りたたんだ上で収納されているが、使用時はクリップが180°展開



マニピュレーターで細い通常の使用に加え、デストロイモード時には、展開した前腕部にマウントしてビーム・トンヌーとしても使用可能。

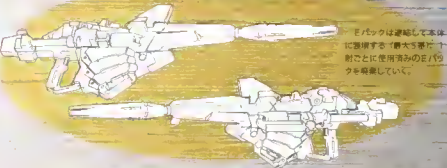
前腕や前脚の収納を考慮して、グリップは細長い形状となっている。

#### ビーム・マグナム

ビーム・マグナムは、1制でこの時代の標準的なビーム・ライフル4射に相当する出力を持ち、拡張した「マグナム砲」と呼ばれるEバックのエネルギーを、1射ですべて使い切る。その威力は凄まじく、がすっただけでMSを撃破するほど。



ビーム束は太く、艦艇やMÄなどの大型の目標の撃破にも通じている。



Eバックは連結して本体に拡張する「最大5倍に1射ごとに使用済みのEバックを廃棄している」

## PILOT パナージ・リンクス

ユニコーンガンダムの持つ「可能性」の力を開く少年パイロット

ユニコーンガンダムに乗り込むことになった人物は、これまでの多くのガンダムのパイロットがそうだったように、それはまさに、民間人の少年だった。事件の舞台となった工業コロニー、インダストリアル7にある工業専門学校に通う学生であったパナージは、「戦争を止めに来た」と言う少女、オードリー・バーンと出会い、彼女と行動を共にするうちに、運命に引き寄せられるかのよう

にガンダムに乗り込むことになる。彼の父はユニコーンガンダムの開発を指揮したビスト財団の現当主、カーディアス・ビストであり、インダストリアル7を飲み込む戦火の中、溺死の父から直接ガンダムを託されたのだった。運命、シオン軍の両方が狙う「ラプラスの箱」の秘密を持つ、ユニコーンガンダム。その争奪戦の中で、パナージはさまざまな体験を通して成長していく。



### PROFILE

年齢 17歳 身長 174cm 体重 60kg  
所属 工業専門学校、ユニコーンガンダム 母艦の兵を襲撃し、ダスト、ジオ、リトル・プラトーン、アムロ・レイ、シャア・バジュラ、ラウ・バウ、ザビの力にならず、1人だけ生き残り、ガンダムを守る。

## THE RIVAL

高い戦闘力を持つ「補付き」のMS5機が、ユニコーンガンダムを追い、その前へと立ち塞がる

### NZ-666 クシャトリヤ

### MSN-06S シナンジュ

#### SPEC

全高/72.3m 本体重量/25.7t  
全備重量/74.0t  
ジェネレーター出力/16,540kW  
スラスター推力/187,000kg  
セクター防御力/18,500mm  
装甲材質/ガンダリウム合金  
武装/ビーム・サーベル×2、ビーム・ガン専用足、ファンネル×4  
脚部メカ腕子×4  
バインダー・腕メカ腕子×8  
マウス・キャンパス  
頭上ビーム・サークル×4



「補付き」が特徴。ニュータイプ専用MS。武装、推進器、ファンネル・コンテナという多くの機能を有する4機のバインダーを装備。バインダーを駆動させることにより、巨体ながらも高い機動性を発揮する。また、ファンネルを用いたオールレンジ攻撃を可能としている。インダストリアル7内でロンド・ベルのMS部隊と交戦を繰り広げ、ユニコーンガンダムを捜索めさせるきっかけを作った。ネオ・ジオンの隠れ人間である女性パイロット、マリナー・クルスが指揮している。



#### SPEC

全高/22.6m 本体重量/25.5t  
全備重量/56.9t  
ジェネレーター出力/3,000kW  
スラスター推力/175,000kg  
セクター防御力/13,600mm  
装甲材質/ガンダリウム合金  
武装/ビーム・サーベル×2  
ビーム・アックス×2  
（隠されたビーム・ナイドラとして駆動可能）  
ビーム・ライフル  
ダム・センサー・ランチャー  
360°全方位の砲×2  
シールド



「補付き」がAE社から開発した試作機。ムーバブル・フレームの一部にサイコフレームを採用しており、この機体から得られたデータはユニコーンガンダム開発に使われている。言うなれば本機は、ユニコーンの兄弟機的存在である。鮮やかな派手なボディに金色の装飾を施したこのMSは、高い機動性と機動性を誇る。パイロットであるフル・フロンタルの高度な操縦技術と相まって、戦場では「激い戦場」の恐怖を知らせるような、極めて象徴的な存在となっている。



## 歴代ガンダム スペック一覧

これまで紹介したガンダムの、性能を見比べてみよう

40m

30m

20m

10m

型式番号	RX-78-2	RX-79(G)	RX-79(G)Ez-8	RX-78NT-1	RX-78GP-01	RX-78GP-01-Fb	RX-78GP-02A	RX-78GP-03S	RX-78GP-03	RX-178
名称	ガンダム	機動型ガンダム	ガンダム Ez8	アレス・ウス	ガンダム 試作1号機	ガンダム 試作1号機 バンバー・アラン	ガンダム 試作2号機	ガンダム 試作3号機 スタイオン	ガンダム 試作3号機 デントロビウム	ガンダム Mk II
乗取投入年月	U.C.0079.9	U.C.0079.10	U.C.0079.11	U.C.0079.12	U.C.0083.10	U.C.0083.11	U.C.0083.10	U.C.0083.11	U.C.0083.11	U.C.0087.3
機体高	18.0m	18.0m	18.0m	18.0m	18.0m	18.5m	18.5m	38.5m	38.5m	18.5m
全備重量	60.0t	73.0t	71.7t	72.5t	65.0t	74.0t	83.0t	70.0t	453.1t	54.1t
ジェネレーター出力	1,360kW	1,350kW	1,350kW	1,420kW	1,790kW	2,045kW	1,860kW	2,000kW	38,900kW	1,930kW
スラスター推力	55,500kg	52,000kg	53,000kg	174,000kg	108,000kg	234,000kg	155,200kg	188,000kg	2,268,000kg	81,200kg
機体重量比 (主)	0.93	0.71	0.74	2.40	1.66	3.16	1.87	2.69	5.00	1.50



# ガンダムという名の伝説

ガンダムの前にガンダムなし。ガンダムの後にガンダムなし MS制成期から、絶えることなく伝説を繋ぎ続けるMS、“ガンダム”とは…?

## 万能兵器、ガンダム

ミノフスキー粒子の散布環境下における、電磁波妨害をはじめとするさまざまなミノフスキー効果は、物理学には、言うまでもなく、軍事技術にも計り知れない影響を与えた

中・長距離での索敵や誘導兵器の使用はおろか、味方との通信さえままならない環境下では、まるで旧世紀に類いつたかのような、有視界戦闘を余儀なくされることになったのだ

そこに登場したのが、人と同じような四肢を持ち、さまざまな操行兵器を巧みに操ることのできる接近戦闘機動兵器、MSザクだった シオン公国軍は、年戦争において、地球連邦軍艦艇の機に



RX-78-2ガンダムは、宇宙空間で活躍する機体として設計された

飛び込んでの撃破、コックピット内部にまで侵入しての制圧など、MSの用途の広さとその有利性を、存分すぎるほどに証明してみせた

連邦軍が対抗手段として開発したMS（試作機）が、RX-78 ガンダムである 両腕したザクから基礎技術を手づと同時に、連邦軍はこの機体の開発にあたり、MSの戦術における役割の再設定を行っている 最大の特長は、対MS戦を前提としていることと、ありとあらゆる環境下での運用を想定していることだ（自衛戦用MSに分類されながらも、ガンダムはザクをはるかに超える、いわば万能兵器だったのだ

アムロ・レイの優れた操縦能力と相まって、ガンダムは終戦までのわずか3ヵ月半の間に驚異的な戦果を挙げ、伝説的なMSとなる

## ガンダムの名のもとに

以降、ある時は十分な予算を獲得するために、またある時は最高峰の技術の結晶であることを誇示するため、さらにある時は過激な格闘力の象徴として、ガンダムは造られ続けた かつてRX-78のパイロットだったアムロ・レイのために

製造された、専用機まで存在している

こうしてMSは、時代ごとにさまざまな新技術を与えられ、兵器として求められる機能も変化した 1970年代においては、それまでさまざまな手段で解決しようと試み続けていた行動半分の機体に関する問題も、ミノフスキー・ドライブという新たな航行技術によってクリアされており、MSはRX-78がめざした、万能兵器の域に近づいたといえる（これを果たしたのはV2「ガンダム」だ）

MSの進化の道程においてガンダムは、常に最先端の技術や運命とでも呼べる特別な役割を与えられ、伝説として後世に語り続けられてきた それこそこれも



RX-110ガンダムは、空母の機能を備えている



- 1 エンジン推力を機体骨格で割った値、1/3乗第3位を四捨五入
- 2 3 手廻りはミノフスキー・クラフトを併用
- 3 ミノフスキー・フライトの推進力を含まず
- 4 主推進機であるミノフスキー・ドライブの推進力を含まず

MRX-009	MSZ-006	MRX-010	MSZ-010	RX-93	RX-0	RX-0	F91	LM312V04	LM314V21
サイコ ガンダム	Ζガンダム	サイコ ガンダム Mk-3	Ζガンダム	Ζガンダム	ユニコーンガンダム	ユニコーンガンダム	ガンダムF91	Ζガンダム	Ζガンダム
U.C.0087.6	U.C.0087.6	U.C.0088.2	U.C.0088.3	U.C.0093.3	U.C.0096.4	U.C.0096.4	U.C.0123.3	U.C.0153.4	U.C.0153.5
40.0m (全高)	19.6m	39.96m	19.66m	22.0m	19.7m (全高)	21.7m (全高)	15.2m	15.2m	15.6m
388.6t	62.3t	263.9t	68.4t	63.0t	42.7t	42.7t	19.9t	17.7t	15.5t
33,600kW	2,020kW	19,750kW	7,340kW	2,980kW	3,480kW	計測不能	4,250kW	4,780kW	7,510kW
168,000kg	112,600kg	244,240kg	101,000kg	97,600kg	142,600kg	計測不能	68,400kg	79,700kg	66,790kg
0.45 (注2)	1.81	0.86 (注3)	1.48	1.55	3.34	算定不能	4.44	4.50 (注4)	4.31 (注5)

# GUNDAM SIDESTREAM

## 第6回 GUNDAM EVOLVE

CG技術などを積極的に取り入れ、MSの活躍を描いた『GUNDAM EVOLVE』シリーズ。今回はその中から、3DCGで描かれた宇宙世紀のガンダムを紹介しよう。

### 最新映像技術により描かれたガンダム

90年代以降、めざましい進歩を遂げたCG技術は、新しい映像表現を演出することになった。ガンダムシリーズにおいても、それら最新の映像技術を取り入れた作品が多数作られている。この『GUNDAM EVOLVE』では、それまでのアニメーションの技法とCGによる映像の融合に挑戦している。1件あたりそれぞれ10分ほどの短編ではあるが、セル画・2DCG・3DCGなど多様な作画方法を駆使した映像により、MSの魅力を1分に見せてくれるのだ。また、歴史の間に埋もれた経緯や、観劇から見たガンダムの育成を描いた作品などもあり、見所も多い。01年の第1作『GUNDAM EVOLVE 1 RX-78-2 GUNDAM 以降』全15作が製作された。

### RX-78GP04G ガンダム試作 4号機 ガーベラ

ガンダム開発計画において、突撃・強襲・格闘戦を想定して設計された機体。しかし、ガンダム試作1号機フルバリアンとコンセプトが重なるため、計画から外された。A.E.社に導入したスライカ入手したG.P.シリーズのデータのなかに、面画が登場している。



### GUNDAM EVOLVE 5 より RX-93 ヴガンダム



富野由悠基監督の書き下ろしストーリーによる、機動戦士ガンダム空襲の「ヤ」のアナザーストーリー。レオガンダムと「アン」の物語のなか、劇場版とはまた違う「アムロ・レイとウェス・ハラ」の交配が描かれた。

### GUNDAM EVOLVE.//9 より MSZ-006-3A Zガンダム3号機A型 ホワイト・セータ

クリア7戦役中のカッパのチャック研に、大気圏内用の主力可変MSとして試験配備された3機のZガンダム3号機。A型、B型、P2型と、ディテールの細密な改良であるサイズ、フレームと戦術を描く。ホワイト・セータは、全米放映、ガンダム新伝説「ザ・ガンダム」で描かれた、宇宙軍第101号機で登場した機体の改良機。エーゴのZガンダムに倣って開発された機体で、機動性の向上などが図られた。高高度空軍用のオプション・ブースターを装備し、宇宙空間から降下攻撃を仕掛けてくる敵に対応する。ハイロ、トのコードネームは、ナワト・コウゴン。



ウェイブライダー形態

オプション・  
ブースター装備時

### GUNDAM EVOLVE 4 より RX-78GP03 ガンダム試作3号機

ドイツ軍の兵器、A.E.社の「セ」ロスを発展させた、軍事兵器の「セ」ロスを発展させた。開発中、ガンダム試作3号機の戦術を描く。この3号機は、ステイメン機からオキアと合体し、デトロイトと一体化し、圧倒的な力と脚を履き、その戦術を見せつけている。



ステイメン



デンドロビウム

**MSZ-006-3B  
Zガンダム3号機B型  
クレイ・セータ**

ホワイト・セータと同じく、チ・クランに配備された機体。制ヒーム・コ・シーグ性能強化のため、イエローのカラーリングになったが、本来はクレイ・ワルプという通称のハイコロトの依頼で、クレイになるはずだった。大型ヒーム・ランチャーを装備すると、火力が強化されている。



**ウェイブライナー  
形態**



**オプション・  
ブースター装備時**



**MSZ-006-P2/3C  
Zガンダム3号機P2型  
レット・セータ**

Zガンダム3号機C型を「ニュータイプ」専用機に改造した機体。ダイレクトにハイコロトの思考や行動が機体に伝えられる。新型「サイミ」サイコ・ニュートライザーを搭載する。ハイコロトは、ト・スネークのコードネームで呼ばれるコウリン・アン・サ



**オプション・ブースター  
装備時**



**ウェイブライナー  
形態**

**GUNDAM EVOLVE.../10 より  
MSZ-010S 強化型ZZガンダム**

宇宙に独立した「リット・アタ」とオース・オン研究との戦いを描く。ここでの闘いで、ZZガンダムは新たな下半身を持ち、各機とともに、その高性能能力を駆使している。



**MSZ-010S  
ZZ-GR**

第1次オ・ノ・オ戦争にて「リット・アタ」に撃ち落されたZZガンダム。間に合わせの下半身とハイウェイを装着した状態。



**GUNDAM EVOLVE.../13 より  
RX-178  
ガンダム Mk-II**

クリフス戦役にて、メーゴを退撃するデ・ターンズパイロットを主人公に、ノーザフロア降下作戦を描いた。ここでは、Mk IIは、宇宙空間はもちろん、大気圏降下中でもフライング・アーマーに搭載して敵機陣内に活躍。その優れた汎用性が高い戦闘力を、改めて証明した。



**GUNDAM EVOLVE.../15 より  
RX-78 ガンダム**

一年戦争末期の戦場を舞台に、オーレ・レン・攻撃を仕掛けるニュータイプ専用機。プラウ・プロトとそれを機動駆動で、敵に肉迫するガンダムとの協力ある戦闘シーンが展開する。ここで登場するガンダムをはじめとするすべての機体には、いずれも大規模なデザインアレンジが施されている。



狂四郎が繰り出した、眩い輝きをまとう機体の正体は!?

# ガンダム 狂四郎

メカデザイン&イラスト  
やまと虹一  
監修 グラウト向

作品ナンバー 6 キングガンダム

これが俺の  
プラモ人生の  
集大成だ!!

## キングガンダム(キングダム)

作 京田四郎

「な、なんだ! あれは!」 突然プラモシミュレーターに現れた機体に驚く健たち その全色の機体は、サイコ・シオンを一篇のうちに撃破した「これがガンダムの王」キングダムだ!! 狂四郎の音が響く 右手には豪華な改造プラモを両断する剣。左手には特製プラモ魂を込めた聖杖「これが俺のプラモ人生30年の集大成 …たけど31年めには、もっとすごいガンダムを作ってみせるぜ!」 狂四郎のプラモ魂は、さらに熱く燃えている!!

仲間たち

京田四郎





サナリィのF90(左)とアナハイム・エレクトロニクス社のMSA-120による模擬戦

イラスト 沖一

## 第6回 内なる「ガンダム」、内なる「神話」

あら？「が」が付いてるの

そのMSの顔を見るなり、見慣れたマモエラ・ハノバは言った。彼女の感情を込める様子もなく、整備員はマスクを閉じさせる

マモエラの前に艦長代理のレアリー・エドベリは、MSの胸に開いたハッチを奪り、

昔、こんな顔のMSがあったわね と頭部を覗き見た。流れるようにマモエラもレアリーに続き、どれどれ、と覗き込む。ねっ？ とレアリーが口を覆うように問いかけた

彼女たちの眼下にある顔は、人の顔を思わせる顔だ

ああっ、とマモエラは素っ頓狂な声で叫ぶ

ほら、ガンダムっていったわね

マモエラの口から出た名前は、レアリーの記憶にもあった。彼女は整備員兵へのMSのコードを、ガンダムF91にするよう提案した。U.C.0123年、コスモ・バビロニア連邦戦争勃発時、戦火に巻き込まれた新西サイドのコロニー、フロンティアIVへ運び込まれていたサナリィの最新鋭機F91は、こうしてガンダムとしてクロスボーン・バンガードに

抵抗すべく運用されることになった

もともと、彼女たちがガンダム、の史実を見たことはなかったはずだ。すでに一年戦争から40年あまりが経過している。この機体と、かつてガンダムと呼ばれた機体群との間に、決定的な差違も、よく理解してはなかったろう

F91の全高は15メートルほど。従来のガンダムタイプMSよりも数メートル小さい

開発はサナリィ・・・0111年、サナリィはアナハイム・エレクトロニクス(以下AE社)とともに次期1力MS選定のコンペティションへ、F91の前身であるF90を提出していた

次善策では、最大出力・耐弾性・運用コスト・機動戦力、の4つの点をコンピュータ・シミュレーションにおいて比較。前者ではAE社の提出したMSA-120、後者ではF90に軍配が上がついた。審判官たちは両者の優劣に決定的な評価を付せぬまま、模擬戦による二次審査を迎えることとなった。一角と予想された模擬戦だが、結果はF90の勝利に終わった。非難的な勝利に居る審判官は迷惑さめ、見たというから、その「完勝」ぶりから

地球連邦軍は次期1力MSの開発をサナリィに任することとした。これに対してAE社は幾つかの政治的な力を加えたといわれるが、軍の決定を覆すことはできなかった。軍配より引き出したのは、サナリィで開発された機体をAE社が委託生産するという程度の出来事しかなかった

サナリィはF90SガンダムF90サポートタイプをベースに、F70キャン・ガンダムを開発。軍はこの1力MSをAE社へ委託した。F70は一部にF90の後継機F91の技術的成果を反映したこともあり、革新的と評価される試作機だった。この機体をAE社はシェネレーターやスラスターを中心として自社の複製パーツを流用すべく再設計。F71 Gキャンとした。これによりF71は、同社製のRGM-109ヘビーガンとの間に整備パーツの互換性を持ち、高い生産性を持つこととなった。また、支援専用機として柔軟な機能を施したこともあって、性能的には従来の標準機とは一線を画すものとなった。しかし、F70の革新性は失われており、性能的にも及ばなかった

MSA-120の敗北をAE社の体質の敗北であったと最も解く人もある<sup>1)</sup>

A E社は当時のMS同様、あまりにも肥大化していた。0083年のガンダム開発計画における機密漏洩事件が、各事業部ごとの独立性を高める結果となったことは以前述べた。0080年代後期の2プロジェクトは全体的な取り組みだったが、これは極めて例外的なものだった(メラーニ会長が率先して開発計画を推進した点が際立った点のほう)。

事業部の独立性は結果的に各開発事業部の技術的交流を阻害する結果を招いた。第2次ネオ・ジオン戦争時、ネオ・ジオンのMSを開発した事業部からフロン・ブラウンのRX 93開発チームやサイコフレームの技術情報が与えられたのも、事業部というよりはネオ・ジオン側(とりわけ総帥であったシャア・アズナブルの個人的な)意向によるものだった。こうしたでは技術情報は事業部内にのみ蓄積され、A E社全体としては極めて非効率的な開発環境となっていたのだ。

だが、A E社は次期主力MS開発計画(ATMS)での敗北に対して、ある意味、冷静だった。サナリイの開発したF90の「完勝」は認めざるをえなかった。小型MS開発におけるA E社の技術はサナリイに劣るというのだ。突きつけられた事実をA E社は謙虚に受け入れた。ただし、謙虚さが常に正当な企業努力に繋がるわけではない。

連邦軍の主力MS開発から外されるという事態は、A E社にとってはおよそ30年ぶりのことだった。すでに社内にティターンズの脅威として0080年代中期の停滞した空気を知る者は少なくはなかったが、そのことが、この事態を未曾有の危機と認識させた。危機感の中、A E社は暴走する。かつてエゥーゴを支援したように、0112年6月、A E社は非法な活動に手を始める。

SFP (Silhouette Formula Project) = F計画の機密をサナリイより奪取し、新型MSを開発する計画へ踏み切るのだ。

## 現時点での限界性能

F90は基本的に性能検証用の試作機だった。このため、制式採用されはしたものの、次期主力MSとしてはは採用のための様々な変更を行う必要があった。また、軍の側からは「次善案においてMSA-120が優っていた。最大出力、耐弾性、の2点を武器が要する」ことが要件として提示された。これらの要件が機体そのもののコストを上昇させる結果を招くのは明白だった。そもそもMSA-120が高コスト機となっていたことが要因で、この2点にあったのだ。しかし、軍はこれらの要件を満たすことを譲らず、サナリイはスーパーデザイナーのグッゲンハイガー博士上導のもと、現時点でのMSの限界性能の達成という目標を掲げ、後継機F91の開発に着手することとなった。

F91のベースとなつたのはヴェスパータイプのミッシンバックを搭載した機体、F90Vだった。F90Vは、小型によるパワーウェイトレシオ(出力/重量比)の向上が牛み出したジェネレーター出力の余裕という副産物を活かした機体である。この機体のミッシンバックは、ビーム・シールド、ヴェスパーといった従来にもない画期的な新装備だった<sup>10</sup>。

軍から要求された「最大出力を限らず達成するため、グッゲンハイガーはパワーウェイトレシオの改善をさらに推し進めた。従来の方法による軽量化には限界の域に達していた、これを打開すべく、ムーバブルフレームそのものの見直しが行われた。それは、構造上へ電子機器を埋め込み、装甲と融合させるというものだった。

この大胆ともいえる発想は、MCA (Multiple Construction Armour 多機能装甲) 周辺で結実した。MCA構造の符號には、30年近く前に生まれたサイコフレームの製造技術があった。サイコフレームは金属結晶レベルでコンピューターチップを束ねて組み立てるものだが、MCA構造はこれを発

展させたものだった。

MCA構造の確立によって、F91はF90以上の高いパワーウェイトレシオが実現され、機動性は大幅に向上した。これは被弾率の低下をもたらしたが、同時に、特定のレベルのバレット以外には最大稼働時の運用が不可能な機体となってしまった。そこで、F91にはミッターが設けられ、制御用のコンピュータが搭乗者を機体の最大稼働に対応可能なバレットであると判断したときのみ、解除される仕様とされた。

F91の最大稼働は機体温度の上昇を伴うため、各部の冷却は必須であった。とりわけ、F91の制御用コンピュータは生体部品を利用したバイオ・コンピュータを採用していたことから、従来機以上の排熱対策が必要とされた。F91の頭部には高熱を扱うバイオ・コンピュータを冷却するための触媒が納められており、最大稼働時にはフェイスクールドを開き、排熱を行う仕様とされている。また、装甲からの放熱のため、機体表面のコーティングを剥離させる。この、MEPE (Metal Peel off Effect) と呼ばれる状態が生じると、F91の軌道慣性方向には機影が残像として残る。残像は装甲のコーティングであることから質量を失っている、あたかもF91が分離しているような錯覚を齎し与えたという。

ちなみに、バイオ・コンピュータはもともと、モニカ・アノーエ博士からよって、防衛力のために考案、研究が進められたものである。モニカ博士はF91のバレットとなったシールド・ブレイク・ブローの母だった。

グッゲンハイガーはコンピューター・システムの改良も検討していた。そのなかで、民間で研究されていたバイオ・コンピュータが操縦者の記憶や感情を積極的に機体操作へ取り込むことに着目、センサー系の情報をバレットへ直接伝達するため、MSへの技術転用を行ったというバイオ・コンピュ

\*01 MSA-120は、小型化による機動性の向上と高出力を実現した機体で、開発はグラダの事業部が担当した。

\*02 A E社はこの機体に、エネルギーが爆発を喚起し、瞬間的に出力を増大させるメガブーストと呼ばれる新技術を開発し、高機動性の実現を図った。兵器としてはメガブースト・クラフトを利用し、短距離を機動的に高速度で突進するバリエーションを装備すること、最も兵器開発を行った。またA E社は相応しい、取得技術の蓄積と転用が活発であった機体だった。もちろん、MSA-120の小型化での完成速度は決して高くなかった。連邦軍の機密 MSA-120は秘密宣戦に準ずる(秘M5)と判断されたこととまで行われている。

\*03 F90のミッシンバックは機体の完成後、幾度実験が行われている(例:ザクマシン)ではF91の開発と進行して、F91以後のMSF91を母体とした。これにより、サナリイはF91の完成に前倒してF90V ユークラスター・ガンダムを完成させている。

\*04 ビーム・シールドは従来の「フィールドによる」(リアリティは異なり、ビーム・サウザーのような高電圧のミノフスキー粒子を発生させることでビーム、實體弾の両方を防ぐというものである)ビーム・シールドの実用化は、プロボ社を筆頭に集まるクロスボーン・インパードにおいて成された。0120年にF90 2号機を稼働した火炎独立シ

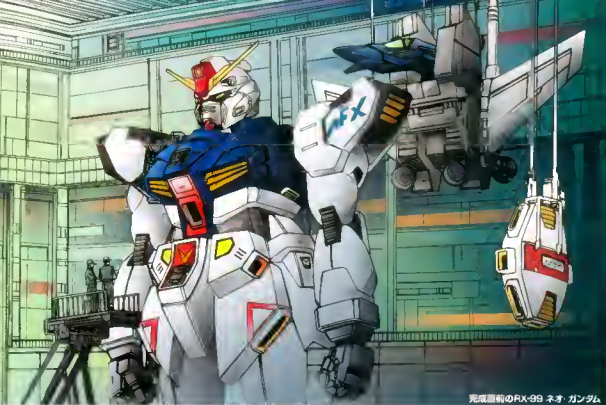
オン軍の機体への装備も確認されている。これはクロスボーン・インパードによる技術供与の結実だった。サナリイでの実験への参加は0121年に完成したF90Vが最初である。

\*05 0111年のATMSではサナリイのF90が選ばれ、F91を次期主力MSとす予定がなされたが、0119年、RCM 109の乗取後はA E社のRCM-119システムとなった。これはF91が高機動性と位置づけられたことも関連しているのだから、RCM-119の実験投入は開発の遅れが0123年以降といわれる。フレームや多くのパーツを共有する半軍用機RCM 122 ヴァレリオンとともに、以後30年以上にわたって運用された。

### F90に搭載されたミッシンバック例

- A. アポロタイプ  
ミッドウェー・クラフトを採用した  
後継機支援機用試作機
- D. ストリートタイプ  
都市部の制空権を前提として開発された接近戦用試作機
- E. Eタイプ  
学術研究用の試作機
- H. ハーバータイプ  
市街に侵入し、一撃制敵戦法を想定した地上戦用機用試作機
- I. インターセプトタイプ  
迎撃・追撃を主任務として開発された  
超長距離からの狙撃、攻撃のために設計された
- M. マリンタイプ  
近海部隊の水中戦用型MSを参考に  
開発された水中戦用機用試作機
- P. プランタイプ  
大気圏突入を目的とした装備  
(試装機はなく、護身用の兵装のみ)
- S. サポートタイプ  
Aタイプ、Dタイプの作戦行動支援を  
想定した長距離支援用機用試作機
- V. ヴェスパータイプ  
ヴェスパーのテストベッドとして  
開発されたオプションを装備





元祖機師のRX-90 ネオ・ガンダム

A.E.社における大規模な「リ・センサー」部品の増設は、RX-90において行われた。「これはリ・センサーという新兵器の技術がサナリ」の独占技術であることを意味する。つまり、これは1950年代のLM3VAV23の複製としても採用されることになる。

RX-90にはリ・センサーの部品と1号機の生産率向上のため、コア・プロ・システムが採用されていた。この仕様は、同時期サナリで開発された、本来主力MS、F90D Vクロスボーン・ハンガードでも採用されていた。しかし、コア・プロ・システムの使用は「F90の延長」ではない。双方の開発者は、これは機体の性能向上のため、機内に同じ仕様を採用しようとしたのだ。サナリにおいて、コア・プロ・システムはその後、F90Dでも採用されることになる。0120年頃、半クロスボーン・ハンガードで、通称「F90D」のF90クロスボーン・ハンガードMS-X-3でも採用されていたといわれる。

なお、RX-99は2機機体改造された。1号機は手足を動かさなくなると作動するシステムが採用されていたといわれる。技術的にはクロスボーン・ハンガードが開発したXMA-01ラフレシアに搭載されたネオ・サイコ・システムと類似し、1号機にはプロ・クロスが存在したことから、A.E.社とクロスボーン・ハンガードの間に何らかの取引があったという推測もある。

はF90-2号機を改修したF90IIでテストされ、F91への搭載となった。つまり、センサー情報をモニターへ表示するのではなく、機体が「感じ」たことをハイロットにも認識させようとしたのだ。

F91は試作1号機からリミッターの解除機能をオミットし、0120年代中期より少数が製造された。この最新機「エース・ハイロット」川として0130年代まで運用されている。大規模な予算が起らなかった点を差し引けても、F91の基本設計の優秀さを裏付ける事例といえる<sup>104</sup>。

## 影のF91

A.E.社が具体的にどのような手段でF91計画の機体を開発したかは明らかになっていない。ただし、SFPの発展後の技術開発が、計画の規模と成果を教えてくれる。

かつて自社の小型化技術の低さからF70の革新性を受け、F71として量産できるを得なかったA.E.社は0123年、この機体を独自に改良、F71B Gキャノン・マグナとして完成させている。また、F70そのものを改良することで、対MS戦用の機体 RGM-111バーディガンに開発にも成功した。

こうした流れの中、開発陣が熱心したのは、サナリ社の最新鋭機のクローン機を造ることだった。機体はRXF91の甲斐番号とシルエット・ガンダムの名を与えられ、開発が進められた。もっとも、開発陣はF91の試作機を手に入れたこと自体は、まったく同じものを開発するとは不可能だった。

サナリにはMSの製造を独占する意思もあったといわれ、多くの技術が製造を委託された企業に対しては非公開とされていた。

例えば、兵器制御システムはA.E.社へも供与され

ていたが、ハイ・データについては非公開となっていた。ハイ・データはA.E.社内でも開発を進めていたものの、未完成であり、制御系には高性能型コンピュータを採用するはなかった。ヒューマン・シールドについても技術の蓄積の薄さから、F91とは外様で異なる仕様となっていた。特に「四機を極めた」RX-91破壊のバグである、ウェスバーの開発だった。

ウェスバー（Variable Speed Beam Rifle、可変速ビーム・ライフル）は高速で貫通力に優れたビームと、低速で破壊力のあるビームを撃ち分けることのできる、人型ビーム・ライフルである。

実用にあたっては人型機コンデンサーの開発が不可欠であったが、A.E.社はサナリから入手した高品質の解析を「与えよう」ことができなかった。当初、開発陣は人型機コンデンサーをエネルギー・AP技術によって代用しようと試みたものの、失敗した。また、設計データをそのまま再現することできなかった。このため、RXF91のウェスバーは取り外し可能な専用兵装となった。

結果、F91のクローン機として位置づけでありながらも、RXF91はA.E.社のそれまでの機体からの素材や技術の流出が多いものとなった。このため、F91に匹敵する新量産の達成は叶わなかった。しかし、ジェネレーター出力はF91を1回り、総合的にはオリシナルと同等の性能を実現していたという。

その際、RXF91はRXF91A・シルエット・ガンダム改として改修され、SFPは最終段階へ進んだ。A.E.社はSFPで得られた技術情報に、これまで培ったガンダムタイプMSのコンセプトを盛り込んだRX90ネオ・ガンダムを完成。ここにおいてようやくサナリとの対抗水準に迫り、行くことができた。

## 拡散と停滯、そして革新

0110年代から本格化した小型MSへの移行は、MS産業におけるA.E.社の寡占体制を弱くするものだった。サナリを中心として、軍主導でMS産業を再編しようという動きがこれに加勢したのには、すでに記した。しかし、サナリによるMS製造の規制もまた、大規模なことはなかった。

地球圏における紛争は0123年のクロスボーン・ハンガードによるコスモ・ハビロニア建州戦争をはじめとして、0130年代にかけても絶えることがなかった。しかし、一連戦争から第2次オース・オシオン戦争にかけて起こった戦乱ほどの規模ではなく、地球圏の治安維持のために連邦軍が必要とするMSの総数は減少傾向にあった。

こうしたなか、A.E.社はMS産業の拠点という方針を転換。他社との共存という形でMS産業そのものを維持しようとした。0130年代以降、A.E.社は周辺企業へのOEM供給などを積極的に行う。開発拠点は分散化し、しかも、各拠点の生産設備設計の特殊性は平均化していた。

特にMS技術の広く拡散していった0140年代は、一般に「宇宙世紀時代」と呼ばれる。コロニー単位の国家「義（コロニー・義）」時代の到来に重なっている。

コスモ・ハビロニア建州戦争における連邦政府の対応は、各コロニーに連邦軍による軍事的な進軍への不安を増大させた。各コロニーは連邦軍駐留部隊の撤去や非常時の川面連邦隊の投入の確約を求めたが、連邦政府は固執し続けた。

コロニー単位での経済格差、住民の意識の隔たりは非常に大きなものとなっており、コロニー間の対立も激しいものとなっていた。連邦政府は各コロニー

「カ、カ、カ」は音「U」MSの飛行を実現するため、フスキー・ナイト・ノブを改造した。フスキーは夢5世代MSを模倣した大気圏内の飛行機をよりミニマムに実現するものだった。LM314V04はミノフスキー・フライド・システムを搭載した機体だったが、怪我的な問題も抱えていた。LM314V04の各バリエーションは単独では飛翔できなかった。低速度の機動しかできなかった。飛翔により遅れを生じさせるには機動制御の活用が不可欠だった。この問題を解決すべく、ミノフスキー・トラ

ックが発見された。フスキー・タイプは理論上、最大速度への加速が可能とされ、最大20Gに及ぶ機動が実現された。LM314V21に搭載されたミノフスキー・タイプ・ユニットは、V字型のユニットから発生するミノフスキー・粒子の渦が、中央で推進力を生むというものだった。急激な移動や機動を可能にし、計しだめられなかった高エネルギー状態のミノフスキー・粒子から、最大1年にも及ぶスラム・スラムの光景を形成する。光景が現れる空間ではミノフスキー・粒子の渦が乱れ、ミノフスキー・フライドの機

角が不可能になるが、超高速の金属粉や電磁的現象が発生し、各種の電子機器に深刻な影響を与える。'06、LM314V21は高振動電機用のバスター・バック・近・中距離電磁網のアルトバスターという武装強化バリエーションを持つ。これは部品として機体、他の追加装備の装着も容易で、容易に追加される。F90のミニ・バスターの思想を継承した機体だもの、うことができた。た。追加機動という設計思想はGアーマーにまで渡れるものであり、これを以て本機はRX78

「正確な実用であると思われる」LM314V21本体の防衛能力は決して高いものではないが、アルトバスターを装備した場合には機体各部の装甲が強化される。機体の1フルード発生時に発生するミニ・バスターが機能する。一方で、バスターバスターはミノフスキー・タイプ・ユニットの自由度を向上させ、機体によって増える重量を相対する機動力を奪うことができた。したがって、両バスターを同時に装備した場合、LM314V21は史上最高の機動力機といっても過言ではなかった。



政治に自衛権を認めたが、サイド0国家主義からコロニー単位の家来主として人々の意識が変化していく。自衛権の根拠解釈がコロニーに独立国家並みの自治権を行使させるようになるまで、さて時間をおく必要があった。

もっとも、このような動きに対し、連邦政府は警戒を続け、各コロニーは自衛のため、コロニー単位の増強を行うことになった。

MSの開発や生産を特定の拠点に依存する必要のない状況が、こうした各コロニー単位の軍備増強に寄与したことは間違いない。

0152年に勃発したゼンスカール戦争時の「ガンダム」は、このような状況があって、初めて生まれたものだった。LM314V04「ヴィクトリガンダム」と呼ばれるこの機体は、連邦軍でも企業でもない、民間人たちの組織であるリガ・ミリティアが独自に開発した機体だった。

リガ・ミリティアはゼンスカール帝国に対抗するため、有志によって結成されたゲリラ組織だった。正規の軍組織ではなかったため、彼らは独自に戦力の調達を行わねばならなかった。

高性能MSはリガ・ミリティアの活動の象徴となることが想定されており、彼らはこれを「ガンダム」として開発しようと考えた。ガンダムタイプは常にその時代の主力MSの開発ベースとしての高性能機であり、戦闘に投入された場合も、機況を人きく変える契機となることが多かった。

ゲノバハイガたちが新世代のMSとしてF90を「ガンダム」としたことも、A.F.社がS.F.P.の成果としてRX99に「ネオガンダム」と名付けたことも開発者たちの「顔」のある高性能MSへの思い入れの結果といえる。だが、それはすでに開発の最前線に限った話ではなくて、F90を1台の当たりとした女性兵士が1台にしたように、「顔」のあるMSは広く「ガンダム」と認知されていた。

0150年前後の段階で、「ガンダム」への信仰はもはや軍や開発者たちだけが持つものではなくなっていた。民間の人間までもが、この「顔」のある「U」MSを特別な存在として認識していた。

民間人の手で「ガンダム」を復活させる。0149年に始まったリガ・ミリティアの開発計画は、かつて連邦軍がRX78を開発した。V作戦（同様に「計画」と付けられた）。

0120年代後半からのMSの新規技術の開発は停滯を含めなかった。しかし、MS技術の進展は限られた開発ポイントを通過させる開発を可能にした。計画において、MSはかつてのようにひとつの拠点で開発する必要は低く、ヨーロッパ各地の工場を使っての開発が行われた。こうした開発は、過去においては考えられなかった。このことがV計画をMS開発に戦略的な進歩を与えるプロジェクトとした。LM314V04は、機体のガンダムタイプとして採用型MSとしての機能を先鋭化し、戦況にに応じて柔軟な対応を実現させた。本機の開発には、開発・運用の両面であるリガ・ミリティアの資金人材の不足から求められたものだった。このため、コア・プロセッサシステムを採用した3つの部位から構成可能な可変合体機体を持ちながら、本機の整備性は高く、少人数での運用が可能なシステムが構築されている。本機は従来のどのガンダムタイプよりもゲリラの運用が可能だった。

また、LM314V04をベースとして戦術指揮官用の「LM314V06 ヴィクトリガンダム」も開発されている。これは、V字型アンテナを廃すなど頭部装備を交換し、センサー、通信機能を強化した頭部機である。基本的にLM314V04のパーツを流用していることから、LM314V04の追加機体であるオーパーガンダム・バックも装着可能だった。

LM314V06はガンダムタイプの最新計画の少数ない成功例といえることができる。これは、開発拠点

の分散化の結果、生産拠点ごとに強化案の検討が可能となったためといえる。

LM314V04の性能において特筆すべき点は、本機がミノフスキー・フライドにより従来の機よりも高い飛行性能を発現していたことだろう。ゼンスカール戦争後期に投入されたLM314V21 V2ガンダムは、この機能をさらに強化。ミノフスキー・タイプ・ユニットによって1.5倍速に増える機動力を得るに成功した。

## 普遍化される試み

ガンダム」という機体は最初の開発から80年以上が経ち、じき100年を迎えようとしている。まさに「ガンダム」の世紀」とも称すべき100年である。その歴史の中では、派生機や改装机もあれば、機に数千年になるという「ガンダム」が生み出された。ある機体は机上の空論として消散消滅し、ある機体は試作過程で打ち捨てられた。しかし、開発に関わる人々のなかでは、確かに生み出された「ガンダム」を生み出すという人々は、常にかつての「ガンダム」を敬うようとする。ティターンズ、A.E.社、サナリイ、リガ・ミリティア……いずれの組織に属しているかは関係を持たない。誰もが原点への回帰を1にする。

だが、ア・バオア・クーで失われた「顔」の複製を再生することが目的ではない。彼らが向き合っていたのは自分自身である。

己の影である「ガンダム」こそが、彼らの目標だった。足元を超える力を持つからこそ、「神話」は人々を魅了する。

ゆえに「ガンダム」は、最強であらねばならなかった。

(完)



# GUNPLA-ガンプラ30年の歩み

## Revelations



### MGからRGへ その先にあるガンプラの未来

「ガンプラが生誕30周年を迎えるまでの道程には、どのようなチャレンジが存在したのだろうか。そして、進化し、挑戦し続けてきたガンプラは、この先どんな未来を示してくれるのだろうか？」

### MGが迎えた 100アイテムという節目

95年にデビューしたMGは、「プラント」を立ち上げて2年11月の'07年、通称100体のアイテム発売を迎えようとしていた。

100体めの製品発売に向け、まず一年戦争時のMS群を人脈にアップデートした製品、Ver.2.0のリリースがスタートした。最初の節目となったアイテムは、量産型ザクのVer.2.0。これは、フレームの運動やひねりの表現などが可能となる機構を取り入れ、アニメ本編での印象的なアクションを完璧に再現できる完成度の高さを誇っていた。この製品に計かれた技術は、日本ならではの優れた製品を選定する「新日本様式100選」（新日本様式協議会選定）に選ばれたほどのものだ。

その後、満を持して100体めのMG「シド・ミードの1人型サイレンの手法で仕上げられた逸品、ターンエーガンダム」が発売される。このキタは、ターンエー特有の繊細なディテールとプロポーションを崩さずに人きな可動域を与えるのに成功しており、クオリティの高さは、まさしくブランドが迎えた節目を飾るにふさわしいものだった。



MG 1/100  
MS-06J  
ザク Ver.2.0

フレームの運動可動を突き詰めることでプロポーションを崩さず広い可動域を実現。さらに多様なアクションも考慮した設計となっている。

MG 1/100  
W0-M01  
ターンエーガンダム

MG 100体めの記念アイテム。流線形のプロポーションとフィンを重ねたようなフレームという特異な形状を、ニサリメーションを添えた多関節化。



### 30年間蓄えた 技術が生んだ、RG

次にMGが挑んだのは、P.G.的なMGの「リリース」だった。過去に例をみない「変身する」ガンダムである。ユニコンガンダムの製品化が決定したのた、伸縮するフレームと、展開ギミックを持ちながらも滑く成形された装甲。それらが持つ緻密な機構による「変身」ギミックの再現をこのキタは見事に遂げ、さらに、変身により露出するサイコ・フレームには「発光をイメージさせる素材を配している。その仕様は、究極のガンプラ

P.G.化といえる領域にまで達していた。'08年には、MGとして5体めのRX-78-2ガンダム、ガンダムVer.2.0が発売された。女彦良和氏が描く設定画のプロポーションを模し、劇中のアクションを完全に再現可能にした本製品は、ザクVer.2.0以上の緻密なフレーム構造により実現した。このようにMGが研鑽を凝らす見せるなてメーカーは、ガンプラを題材にスケールモデル的なディテール表現の可能性を追求する。そしてHARDGRAPHシリーズを発表する。よりリアルな戦場のコマを切り取ったかのような解釈は、ガンプラの世界観をいっそう拡大した。

MG 1/100  
RX-0  
ユニコンガンダム Ver.Ka

07年12月発売  
スライダギミックを駆使することで機体の特徴である「変身」を実現。伸縮フレームと緻密なディテールなら可能とする装甲は、P.G.で培った技術により完成した。



MG 1/100  
RX-78-2  
ガンダム Ver.2.0

08年7月発売  
細身のプロポーションながら、さまざまなギミックが可能な内部フレームは、ガンタムの可動を追求してきた結果に導いた。可動範囲における口と口の可動域となっている。

そしてガンプラが30周年を迎えた10年、新たなブランドが誕生した。それは1/144スケールで、MGレベルの可動と精度を実現しようとするものであった。RGと名付けられたブランドの製品第1弾は、1/144ガンダムをモチーフにした、P.G.で培われたシステムインジェクションの採用により、簡単に組み立てられ、広い可動域を持つフレームを導出した。さらに、装甲枚ごとに異なる色味を内蔵したパーツ分割で再現するとともに、高精度なディテールも彫り込まれていた。ガンプラの原点である1/144スケールに、培った技術が凝縮されており、ガンプラに初めて触れるファン、ずっとガンプラを愛し続けてきたファンのどちらにも、作る楽しさを再認識させてくれる1/144となっている。

こうしてRGは、ガンプラの新たな歴史を拓く形でスタートを切った。しかしこの新ブランドの可能性は、それだけにとどまらず、RGは、今後ともさらなるリアルを追求していく。

30年という年月を経て、可動ロボットプラモデルの可能性を探索し続けてきた、ガンプラ。これからは、新たな技術と予想を超える発想力によって、作る楽しさを提供し続けてくれることを期待したい。

UCHO 1/35 地球連邦軍61式戦車5型 セベシテール  
09年1月発売



1/35スケールでミニタリオンモデル的なアプローチで展開した、黄色のガンブラシリーズ。兵器として実在しているようなリアルな存在感のあるディテールの表現などが特徴された。

RG 1/144  
RX-78-2  
ガンダム

10年7月発売  
ガンプラ30周年に誕生した新ブランドの第1弾アイテム。P.G.から培った技術を1/144スケールに凝縮し、作りやすさと完成度の高さを両立している。



## OVA 機動戦士ガンダムUC episode2 発売に合わせて、MS群もそろそろ登場!

おおいに盛り上がりを見せる ガンダムUC。今回は敵側のメインメカ、シナンジュをはじめ、連続リリースされるキットを紹介

11月12日のOVA「ガンダムUC」第2巻リリースに合わせて、劇中に新たに活躍する機体の先行先行が進行中だ。シナンジュと呼ばれるフル・フロンタルの愛機であり、シナンジュ専用機を思わせるシナンジュ機動戦士Zガンダムに、登場した白式の機体を組み、ウェーブライターの形態に変形可能な試作機「デルタプラス」最新機をカスタマイズし、パーソナルカラーで彩った専用機として登場する。シナンジュ専用のカラーリングの機体。第1巻に合わせたガンダムUC「アイティム」に比べるとリアルなデザインは少ないが、今作のライティングは、ガンダムUCの過去の歴史を知っている人にとっては、思わず心を惹かれる機体か

### HGUC 1/144

#### MSN-06S シナンジュ

価格 30円 税込 10年10月下旬発売  
発売元 バンダイ

※機体色が目を引き、ユニークなガンダムUCのメカ、機体カラーの組み合わせ、シナンジュの機体カラー



11月12日というタイミングがポイントだ。そして、本編に展開される新たな「アイティム」によるカラーリングを見れば、その「アイティム」を自分の「アイティム」に、きいてこれらのキットを「アイティム」にしてしまうはずだ

### HGUC 1/144

#### MSN-001A1 デルタプラス

価格 230円 税込 好評発売中 発売元 バンダイ



### HGUC 1/144 AMS-129

#### ギラ・ズール アンジェロ・ザウバー専用

価格 110円 税込 好評発売中 発売元 バンダイ



### RGシリーズ第2弾は「赤い彗星」の愛機に決定!

ガンダム最新ブランドの第2弾アイテムとして発表されたのはシャア専用ザクだ。RGガンダムと並び立つディテールを持つデザインと、専用の内部フレームによって、ファン特製の1/144スケール完成品のザクが生まれるリリースされる。

### RG 1/144 MS-06S シャア・アズナブル専用ザク

価格 110円 税込 好評発売中 発売元 バンダイ



RGガンダムと並び立つディテールを持つデザインと、専用の内部フレームによって、ファン特製の1/144スケール完成品のザクが生まれるリリースされる。



### 川口亮二のガンダムUCとガンダムUCのガンダムUC

現在ガンダムは国内だけでなく、海外でも多くの方に愛されています。ガンダムコンテストなどで実際に海外ユーザーや彼らの作品に接する機会も多いですが、取材などの折に「海外ユーザーが作るガンダムはどうか?」とよく聞かれます。スケールレベルで言うなら、国内外のモーターの差は無いに等しい。海外ユーザー、ネット上で交わされる作品群を介して、作品そのものに対する理解度も高い。新製品は国内とはほぼ同タイミングで発売されるし、ネットを介した情報の取得にボーダーは無い。ツールやマテリアルに関しては、海外を通じて入手することは可能。ガンダム製作環境は国内と変わらない環境にある。香港、台湾、韓

国といった地域では、早くからガンダムを愛していた方も多かったが、マレーシア、フィリピンといった東南アジア圏の間でもこの数年で急速にスキルレベルが上がっている。情報の取得にボーダーは無いのだが、翻訳サイトなどを通じて知る情報には問題もある。彼らはネットに上がっている作品画像を自撮り、断片的に知り得た情報を試行錯誤しながら制作している。様々な作例の作品が手となり、様々な知識が実践されることで技術に転化している。だから、スキルが上がるのも光もである。だから、専門誌、ネット情報を活用するだけで、新たな情報や知識を築くことができる環境には、ともする

と、知識を得たことで技術を得たと錯覚させてしまう側面がある。ツールやマテリアルを入手しただけで、超絶作例が出来るかと錯覚する人もいる。そんな意識が高じてくると、自分の思い描く完成度を具現化するために様々な知識やツールを「使う」という練習意味本来の目的が、知識を得ることでやツールを揃えること「目的」にすり替わってしまうこともあるようだ。知識は実践して初めて技術として身に付くものであり、作り続けることでスキルは上がる。身に付いたスキルは、応用することで新たなスキルとなる。機型趣味には終着点などというものは存在しないのである。

### 今月のガンダムUC入り作品

#### MG 1/100 ガンダムアストレイ レッドフレーム ブルーフレーム



バリエーションの多いガンダムUCのデザイン的な要素などを実装できるもの、機体の滑らかさ、部分別にメタリック塗装を施したメカニックの仕上げは、自分の仕上げの完成品になる



機動戦士  
**ガンダムユニコーン**  
MOBILE SUIT GUNDAM UNICORN  
episode 2 「赤い彗星」



1929472006572

●製造・サンライズ